

「NEWSな濟生人」

「認知症の人」と
区別しない社会を

濟生

SAISEI

THE NEWSLETTER of
Social Welfare Organization
Saiseikai Imperial Gift Foundation, Inc.

No.1133

11

November 2023

社会福祉法人

恩賜財団

濟生会

<https://www.saiseikai.or.jp>

濟生会の 不易流行論

理事長 炭谷 茂
Shigeru Sumitani



禍転じて福となす

自分の人生を振り返ると、苦しかった時の経験の方がその後の人生に役立った。「小さいころの苦労は買ってでもせよ」という諺は、つくづく真理だと思う。自他とも認める貧しい家庭に育ったので、食べ物が好き嫌いはない。物を大切に。贅沢を避け、簡素な生活を好むのも悪いことではない。失敗したこと、屈辱を受けたことなど盛り沢山

だが、どれも後日の成長の糧となった。もちろん穏やかな楽しい時もあったが、これらは記憶に残るだけであまり役に立っていない。

☆ 9月下旬、ベトナム・ダナンに出張した。総裁秋篠宮皇嗣殿下が、日本ベトナム外交関係樹立50周年で同国からの招きで訪問された時に、濟生会と協力関

係にあるダナンががん病院医師と懇談されることになり、それに陪席するためである。

ダナンは、平成27年にダナンがん病院と協定締結のために訪問して以来2度目である。国民性は穏やかで、外国人旅行者には行動しやすい。南国情緒があふれる。8年ぶりに訪れたダナンは、南シナ海からの波が打ち寄せる砂浜は変わらないが、米、豪州、中国等からの観光客が多くなり、外資系のリゾートホテルは急増した。目覚ましい成長ぶりに目を見張った。

最初の訪問時には道路を走るオートバイの多さにびっくりした。今回も多かったが、自動車が増え、確実に豊かになっていく。

このような変化を楽しんだ到着日の翌日、ホテルで朝食を食べた。ベトナム料理が美味しく、食欲は進んだ。飲み物が欲しくなったので、レストランのドリンクコーナーに行くと、水差しに入れた水はあるが、ボトルがない。コーラやジュースは飲みたくない。そこで牛乳を選択した。冷たく美味しかった。それが苦難の原因になるとは……。

2時間半後、外出先で経験したことのない強烈な胃痛が襲った。汗が出て立っていられない。何とかホテルにたどり着き、部屋で嘔吐を繰り返した。

午後から出張の目的の一つであるダナンがん病院に向かった。冒頭あいさつもそこそこ吐き気が襲い、5分も続けれない。事情を話し、病室で休ませてもらった。たくさん医師は心配してくる。血圧を測ったり、顔色を見る。私は、ベッドでしばらく休めば何とかなるだろうと思った。2時間ばかり男性医師がずっと傍にいてくれた。おかげで体調はだんだんと回復した。

その日の夕方、秋篠宮皇嗣殿下とダナンがん病院医師11名との懇談は、予定より大幅に長くなり、盛り上がりがあった。医師の方々は大変、感激していた。この懇談によって、濟生会とダナンがん病院の関係は飛躍的に深まった。

私にとっても、きつとダナンがん病院の医療スタッフにとっても、私の突然の体調不良は、両者の距離を一気に縮めてくれた。まさに禍転じて福となった。

不易流行(ふえきりゅうこう): 不易は永遠性、流行はその時々の新風をいい、芭蕉が俳諧思想を表現するときに用いた。濟生会は長い歴史で醸成された価値を大切に、時代の変化に適応していかなければならない。

なでしこ
ファーム



熊本、松山から「愛」をお届けします!



熊本濟生会ほほえみ「パン工房ふわり」
熊本県熊本市南区内田町 3560-1 Tel: 096-223-3428



松山ワークステーション「なでしこ」
愛媛県松山市東山町 143 番地 Tel: 089-916-6959

焼き菓子のネット通販店「なでしこファーム」

なでしこファームは、濟生会の就労継続支援事業所で作ったお菓子を販売するネット通販店。熊本・濟生会ほほえみと愛媛・松山ワークステーションが出店し、濟生会のホームページ上で営業中です。商品のクッキーやケーキは、障害者が街のお店に追いつき追い越せと、一生懸命つくりました。どうぞ一度、その思いも一緒に召しあがってみてください。お中元、お歳暮にも最適です。 店主敬白



◆クッキー(左上から時計回りにマープル、ゴマ、プレーン、クルミ)



♥ギフトボックス(クッキーとパウンドケーキの詰め合わせ)



◆くまドレーズ(くまの形で、手軽に食べられる大きさのマドレーズ)



◆元祖クッキー(片栗粉を使ったサクサクとした歯ごたえが人気)

濟生会のトップページからアクセス!!
<https://www.saiseikai.or.jp>



ホームページには、他にも魅力いっぱいの商品が。工房で、お店で活躍するスタッフの様子も。ぜひご覧ください。





11月のたよりが聞こえる 木綿

綿とは木綿のこと。そう思っている
たら、もともとは「糸が長く連なる」
意味で、偏と旁が逆の「綿」だった

そうだ（「大辞林」）。それで納得し
たのが「真綿」。コットンではなく
絹のことをなぞ綿と呼ぶのか不思議
だった。他にも、ウールを生み出す
ヒツジは「綿羊」だし、「石綿」は
木綿ではなくシルクをつやを持つ鉞
物アスベストで、中皮腫や肺がんとの
関連が問題視されている。

1970年代のヒット曲に太田裕
美の「木綿のハンカチーフ」がある。
都会へ出て行った男と地方に残る女
の悲恋物語。長距離電話の男女の会
話と、タイトルの意味

が長い歌詞の最後の最
後に分かる仕掛けが話
題となった。松本隆作
詞・筒美京平作曲とい
う昭和ポップスの最強
タッグの作品だが、歌
詞がポップ・ディランの
パクリではないかと別
の方面の話題も呼んだ。
都会と地方、洗練と
素朴、大人と子ども、
高価と安価。そうした
対比を布に例えたら、

きつと絹と木綿になる。しかし、木
綿もかつては貴重品だった。

インドや中南米原産の木綿が、麻
が主原料の日本に入ったのは平安初
期。しかし、栽培技術が伴わず全滅し、
再び入ってきたのは鎌倉初期で、貴
族の間でも貴重品とされた。室町時
代に日本でも広く生産されて広まり、
江戸時代になると「百姓は木綿を着
るべし」とのお触れが出ている。

毛織物や絹製品、化学繊維の開発
でライバルは多くなったが、素材と
しての木綿の人気は高い。オーガニ
ック・コットンも登場し、植物系織
維では相変わらず、王様だ。

原料は綿花と呼ぶが、本当の花は
夏に咲き、綿花は秋に実からはじけ
る白い毛。種を守っているのは確か
だが、植物的にその働きはよく分か
っていないらしい。タンポポのよう
に風の乗るには重すぎるし、動物が
食べるには綿あめほどおいしくない。
最有力なのは水に乗って分布を広げ
るための浮袋説だが、今やヒトの力
を利用して十分、広まっている。

(Y)

表紙のことば

綿毛が私たちの肌も守ってくれる

表紙イラスト 久保田真由美 Mayumi Kubota

植物の種というのは様々な方法で本当に大切に守ら
れているものだと感心します。綿花にはそれが優し
く柔らかくふわふわとした形となって見えている。
その優しさと柔らかさを繋げて私たちの一番近いと

ころで包み守ってくれているのがコットンです。
種を守る、命を繋ぐ、植物のその優しさや強さと
希望が詰まった繊維だから、コットンは私たちの
肌にも気持ちにも優しいのかもしれない。



済生

SAISEI

CONTENTS
NOVEMBER, 2023

NEWSな済生人

「認知症の人」と区別しない社会を
鹿児島病院 副院長・在宅医療推進室長 06

黒野明日嗣さん

済生会交差点

《看護専門学校での災害救護訓練》他校の学生
との交流の中で、災害時の救護活動を学ぶ/
《まちづくりの推進》小樽暮らしたい共創
フェス2023 小樽の未来を皆で描く! / 《広
報担当者が考える2日間》“正しい”情報と
はなんだろう。コロナ禍になができたのか 10

済生会フェア

岡山済生会総合病院・看護専門学校 18
福井県済生会病院 25

巻頭コラム 済生会の不易流行論

禍転じて福となす 理事長 炭谷 茂 03

11月のたよりが聞こえる 木綿

表紙のことば 久保田真由美 05

ソーシャルインクルージョン

20

この人 伊原六花

口福にっぽん 吉井省一 26

だれでもかんたん てづくりおもちゃ
いまいみさ 30

TOPICS

載々、大雑報 32

題字協力：石飛博光

アートディレクション：OVO INTERNATIONAL

厚労省は2025年には国内の認知症患者数が約700万人、65歳以上の5人に1人になると見込んでいます。本年6月に認知症基本法が成立し、すべての人が互いに人格や個性を尊重し支え合う共生社会を目指すことが掲げられました。認知症への不安

や誤解を払拭し、地域の人々が安心して暮らせるまちづくりの手がかりについて、鹿児島病院副院長で在宅医療推進室長の黒野明日嗣さんに伺いました。(神奈川・横浜市六浦地域ケアプラザ 済生記者 山田和恵)

「認知症の人」と区別しない社会を

鹿児島病院 副院長・在宅医療推進室長

黒野明日嗣さん



鹿児島病院の関連施設「シルバーフラット武岡台」の前で。左はインタビューの山田さん

誰もがなりうる病気で

“自分ごと”として考えるべき



訪問診療は病気だけを診るのではなくその人の暮らしを支えている

したが？

黒野 はい。しかしながらアルツハイマー病の根本的な治療法はまだないので、適切なケアやリハビリテーションが必要なんです。

山田 当プラザがある横浜市金沢区でも高齢者は増加、高齢化率は30・6%（22年9月30日現在）で認知症の人も増えています。鹿児島市はいかがですか。

黒野 鹿児島市の高齢化率は28・3%（20年10月1日現在）です。独居高齢者が多く、今後およそ20万人が訪問診療を必要とするとい

う推計もあり、その受け皿として済生会が注目されています。当然、認知症の診療体制も強化していく必要があります。

山田 鹿児島病院は昨年4月に在宅医療推進室を設置しました。どのようなお仕事をされていますか。

黒野 当院関連施設の特養、サービス付き高齢者向け住宅、認知症グループホームなどの利用者さんの主治医を勤めています。また、地域にお住まいの患者さんへの訪問診療も少しずつですが始めました。スタッフは私と看護師3人です。

認知症と「対等」に向き合う

山田 認知症は誰もが避けて通れないのしょうか。

黒野 認知症は年齢が一番の危険因子です

山田 認知症との関わりは長いのですか。黒野 約20年になります。昨年4月に当院に着任しましたが、私は神経内科医で生体の電気現象を通してさまざまな機能を解明する電気生理学が専門です。スウェーデン留学中に患者とじっくり向き合う仕事が多くなり、帰国後2年して介護老人保健施設へ。そこで認知症の問題に関わるようになり、ケアの重要性に気づかれました。家族ともっと早く出会う必要性を感じ、お隣の関連医療機関（精神科）の外来を担当することで、本格的に認知症診療に取り組むようになりました。

山田 認知症といえは10年ぶりに新薬が承認されるといいう明るいニュースもあります。どんな薬なのでしょう。

黒野 認知症の原因となる病気で最も多いアルツハイマー病は脳の神経細胞の減少により脳が委縮していく変性疾患です。アルツハイマー病の新しい治療薬「レカネマブ」は脳の神経細胞を死滅させる原因タンパク質（アミロイドβ）を取り除く抗体医薬品で、早期アルツハイマー病患者の認知機能の低下を遅らせる効果があります。

山田 米国ですすでに承認されたと聞きます



鹿児島病院のリハビリスタッフは「患者さんの伴走者」として在宅復帰を支援している

鹿児島病院の職員が地域の文化祭に参加し血圧測定などの健康チェックを実施。地域とのふれあいで安心して暮らせる“まちづくり”を目指している

ので、誰でもかかりうる病気です。今ポジティブヘルスという考え方があって、健康を状態ではなく、自分でコントロールできるように患者を育てようと考えています。言い換えると、病気がなくても気分が塞いでいれば病的。逆に病気をいくつも抱えていても、自分の身体とうまく折り合いを付けてながら生活することができれば健康的と言ったことができます。

山田 病気に適応する能力を身につけることで、病気であっても健康になりうる——これは認知症にも通用する考え方ですね。認知症患者さんと向き合う上でどのようなことを心がけていますか。

黒野 最も大切なのは「認知症の人」と

※写真撮影時のみマスクを外しています

認知症への誤解や偏見をなくし
安心して生活できる
まちづくりを

黒野 家族が認知症になると「できなくなつてしまったこと」ばかりに注目してしまふ大切なお父さんお母さんであるということを見失う方もいます。残された機能をポジティブに捉えられるようになることで、認知症に対する認識も変わるのではないのでしょうか。そうすれば、認知症のイメージもよくなるような気がします。

山田 そのためには認知症の特徴を知ることが重要、ということですね。

黒野 例えばアルツハイマー病が進行すると、周辺症状の一つである「もの盗られ妄想」が現れることもあります。その場合、



鹿児島病院の訪問診療スタッフ（左から黒野さん、山浦育代さん、新畑美千代さん、桑鶴剛さん）



病院職員との勉強会。みんなで考えてほしいことをテーマにするので気軽に受けることができる



医療必要度が高い要介護者が長期の療養を受けられる介護医療院。左から5人目は施設長で鹿児島病院院長の久保園高明氏

山田 ようです。その違いはどこから？

黒野 まだ研究中ですが、どうもそれまでの人間関係が影響しているのではないかと気がします。認知症になつても幸せな暮らしを送る人は、認知症になる前からよい人間関係を築いてきたのだと思います。これは認知症になつても安心して過ごすための重要なポイントだと思います。

山田 認知症のイメージを変えるには、まず認知症患者さんの身近な人の意識変化が必要ですね。

山田 認知症は誰がなりうる病気であり、一人でも多くの人が自分のこととして考えられるようになれば、より成熟した社会になるのではないかと思います。また、認知症を特別なものにしすぎている感じがします。認知症ケアに「ユマニチュ

して区別しないことです。認知症と診断された途端に、治療の対象というだけの疾患名が患者さん個人のパーソナリティーを覆つてしまふことが多いのです。軽症の認知症患者さんの言動は健康な人と少しも変わらないのに、色眼鏡で見られることもあります。

山田 私は横浜市のカラバン・メイトとして、小・中学校に向向いて認知症について理解し、認知症の人を見守るサポートを増やす活動をしています。サポーターになった中学生が認知症の人を発見、保護した事例がありサポーターの必要性を感じています。

黒野 認知症は誰もがなりうる病気であり、一人でも多くの人が自分のこととして考えられるようになれば、より成熟した社会になるのではないかと思います。また、認知症を特別なものにしすぎている感じがします。認知症ケアに「ユマニチュ



城山公園から望む桜島。鹿児島病院は市内の中心部にあり市民の暮らしを支えている

山田 地域に根差した診療体制づくりで取り組んでいることはありますか。

黒野 昨年11月に、院内に介護医療院を併設しました。介護医療院は、生活と医療の両方を長期にわたって提供できる施設です。鹿児島市の済生会グループには基本生活は自立している方のための軽費老人ホーム、支援が必要になってきたらサービス付き高齢者向け住宅、認知症の専門的なケアが必要であればグループホーム、介助が全般的に必要な場合は特別養護老人ホームと施設が揃っています。しかし、最後は介護だけではなくどうしても医療が必要になりますのでその部分

山田 取材を終えて……

雄大な桜島に見守られ、温かい眼差しで患者さんに寄り添い診察をされる黒野先生。在宅医療や訪問診療に加え、認知症の正しい知識・理解のための研修や講演会等の人材育成にとっても積極的に取り組まれています。

山田 今後在宅医療、訪問診療を通じて、患者さん一人ひとりの人生を支え、認知症になつても安心して生活できるまちづくりを一步ずつ進めていきます。



山田 患者さんに対して赤ちゃん言葉を使つたりするのはそういう現象の一つですね。

黒野 改善すべきこととはいろいろあります。例えば、医療者が認知症患者さんに「食事はしましたか」

山田 職員同士のコミュニケーションも重要ですね。

黒野 はい。特に訪問診療では病気の二次予防と病初期に早く気づいて早く入院してもらい、早く元の生活の場に戻ることができるようマネジメントすることが重要です。そのために第一弾として特養のスタッフとの勉強会も始めました。今後は電子カルテを共有してこれらの施設とカンファレンスができるれば、より質の高い三次予防ができるのではないかと考えています。

山田 誰しも安心して自分の最期を迎えたいと思います。そのための仕組みづくりが進んでいるということが、お話を通してよくわかりました。



山田 認知症を理解する上でどのようなことを心がけるべきでしょうか。

黒野 私が外来で診ている患者さんの中に、楽しそうによく笑う人がいます。家族もそれをうれしそうに見つめています。とても微笑ましい光景です。私の診療経験から、認知症の患者さんには幸せに暮らすやすい人とそうでない人がいるように思います。言い方を変えると、認知症には好かれる認知症と嫌われる認知症がある

「夜は眠れましたか」「お通じはありましたか」と尋ねる場面。特に違和感を持たないかもしれませんが、実は医療者にとって必要なことを聞いているだけの一方的なコミュニケーションです。

山田 なるほど。言われてみればそうですね。

黒野 私は外来でも訪問でも心がけていることですが、患者さんと「今日は天気が悪いですね」「調子はどうですか」などと世間話をするようにしています。もっと認知症の人と無駄話でもいいので対話をしてほしいですね。そこからコミュニケーションが生まれると思います。

山田 認知症を理解する上でどのようなことを心がけるべきでしょうか。

黒野 私が外来で診ている患者さんの中に、楽しそうによく笑う人がいます。家族もそれをうれしそうに見つめています。とても微笑ましい光景です。私の診療経験から、認知症の患者さんには幸せに暮らすやすい人とそうでない人がいるように思います。言い方を変えると、認知症には好かれる認知症と嫌われる認知症がある



初対面のグループで ディスカッション 避難所での 被災者支援を学ぶ

西ブロック

10月6日に兵庫県姫路市の「アクリエひめじ」で開かれ、2年生178人と教員18人が参加しました。
はじめにピースウィングズ・ジャパンに所属している岡山済生会総合病院・救急科の稲葉基高医師が災害医療について講義。ウクライ



済生会 交差点

SAISEIKAI JUNCTION

済生会にはたくさんの道があります。道はどこかの交差点で交わり、離れていきます。そして経路は異なっても目的地はみんな同じ。「笑顔」です。



ナ等の紛争地や東日本大震災での医療活動を語りました。また、初対面の救急隊員が救護活動を行なう上での原則「CS-CAT-TT」を解説しました。グループ討議では勤務中に大規模災



害が発生したと仮定、どのような行動をとるべきかなどを議論しました。学生は「緊急時にすぐ対応できるように日頃から何ができるか考えておくことが大事」「病气やけがした人を勇気

他校の学生との交流の中で 災害時の救護活動を学ぶ



【西ブロック】避難所で起こりうる出来事を模擬体験できる「HUG」。「最初は進め方が難しかったがチームで協力して取り組めた」と話していた



【東ブロック】フィールドワーク中、「地域を浸水被害から守る」駐車場を発見。掲示板の内容を確認する静岡看護学校の生徒たち

**看護
専門学校の
災害救護訓練**

東) 宇都宮 / 川口 / 静岡
西) 滋賀 / 中津 / 野江 / 岡山

東ブロック

周辺地域を知り 災害を自分ごと として捉える

オンラインを用いた合同災害救護訓練を7月13〜14日の2日間で行ないました。テーマは「災害を自分ごととして捉える」。計106

災害時に看護師として被災者に援助ができるよう、済生会看護専門学校では合同の災害救護訓練を行なっています。東ブロック(宇都宮・川口・静岡)は7月13〜14日に、西ブロック(滋賀・中津・野江・岡山)は10月6日に実施しました。



指定避難所を目指す宇都宮校の学生

人の学生が参加し、災害時のための知識や技術を学びました。1日目は学校ごとにフィールドワーク・グループワークを実施。参加者は3〜5人のグループに分かれて各学校周辺地域を回り、災害時に起こり得る環境の変化や危険性を調査しました。



街の中にある消火設備の種類や道路幅を確認した

との交流で新しい視点や刺激をもたらした」との声がありました。続いて、災害時のトイレ事情について日本トイレ研究所の加藤篤氏が講演。災害時、実際に生じたトイレの問題や備えの必要性を知り、学生は自分にも起こり得る深刻な問題として熱心に耳を傾けていました。
コロナ禍により各校の学生間のつながりを持てずになりましたが、3校の交流が図れ、有意義な時間となりました。
(静岡済生会看護専門学校 看護教員 萱場健雄)



づけられるよう笑顔を大切にす
る看護師になりたい」と話して
いました。
三角巾を用いた包帯法、避難



所運営ゲーム(HUG)、担架搬送訓練も実施。「三角巾を使うことが今の時代あるのか?」と
思ったが講義を聞いて真剣に取り組めた」「担架を持つ腕が痛かったが人の命がかかっていることを実感した」と感想を述べていました。
HUGは避難所の図上訓練で、250人の避難者をカードに見立て、刻々と変わる状況に対応した避難所を運営するもの。学生は高齢者や障害者、外国人など様々な避難者を想定し通路の幅や導線など意見を突き合わせていました。
閉会式では「訓練を通して一人ひとりが意見を出し

小樽暮らしたい共創フェス2023 小樽の未来を皆で描く!

まちづくり
の推進

北海道済生会
ソーシャルインクルージョン
推進室長
清水雅成



済生会ビレッジでの“未来を考える”講演には総勢50人が参加

合共有し、援助することを学んだ」と述べていました。
学生の成長が楽しみ
コロナ禍前の救護訓練は東

10月7日、(北海道)小樽市の大型商業施設・ウイングベイ小樽にある済生会ビレッジで「小樽暮らしたい共創フェス2023」を開催しました。

・西ブロックともに、1泊2日の宿泊研修でしたが、現在は、合宿でなくても他校生と交流し多くの学びを得る機会として、災害訓練を継続しています。

北海道済生会と病院マーケティングサミットがコラボし、観光都市小樽で医療と福祉を中心としたまちづくりを推進する「ウェルネスタウン構想」の取り組みについて、「見る・聞く・体験する・未来を考える・交流



筆者・清水さん

する」イベントを企画。イベント名の通り、小樽での暮らしではなく、暮らしたいと感じていただけることを目指しました。

イベント前半は、道外からの参加者のために「小樽すこやか

済生会看護学校代表者会の会長で、この研修を総括する宇都宮病院看護専門学校・今野芳子副学校長は「各校の学生が集い、学び合い、交流することで済生

会の看護学生としての連帯感も芽生えています。今後の学生たちの成長がとても楽しみです」と話していました。
(本部広報室 河内淳史)



ツアーの昼食では、全員で小樽名物「若鶏の半身揚げ」を堪能

な暮らし視察ツアー」を実施。小樽運河などの観光地を巡りながら、一方で小樽特有の坂道も



ツアーで訪れた小樽祝津展望台。全員で済生会の「S」ポーズ

体験し、生活の苦勞の一端も感じていただきました。昼食は、地元の人気店「若鳥時代なると」

幅広いテーマで情報共有

で小樽の味を堪能しました。
ツアーの後は、済生会ビレッジで「未来を考える」を講演。基調講演と七つのセッション

(未来づくり講演)で構成される盛りだくさんの内容の3時間で、建設・大学生・高校生・ダイバーシティ・未来の医療・ウェルビーイング・アートの幅広いテーマを題材に、全国から集

まったパネリストに最新動向を話していただきました。また、全国の地域でも起こっている課題について、専門家の立場から解決案を発表し合いました。コメンテーターには地元の

小樽市職員、建設会社役員、観光協会、アーティストなどを招き、さまざまな角度から活発に意見交換が行なわれました。
セッションの中で特に注目を集めたのが、医療とアートの

【実施された様々なプログラム】

①さまざまな職種から6人のコメンテーターが集結 ②パネリストは「キミと描く、小樽の暮らしと医療」のテーマをもとに講演 ③個々の目標や未来の街のすがたを描く「未来スケッチ」 ④市の職員役と障害を持つ人役に分かれて行なうカードゲーム。相手の特性に合ったコミュニケーションを学ぶ ⑤似顔絵のプレゼントで患者に「生きる」喜びを与える、病院内にアート作品を取り入れる、といった取り組みについて講演をした村岡ケンイチさんは、懇親会で小樽の風景や参加者にそっくりな似顔絵を描き盛り上がった ⑥パネリストとコメンテーターの集合写真。皆で小樽の「O」ポーズ



学校代表・似顔絵セラピー代表のアーティスト、村岡ケンイチさんの「医療とアート新たな可能性」と題した講演です。「患者さんを取り入れ、患者さんの心のケアにつながることはもちろん、そこで働く職員のモチベーションアップにもつながります。



ハンセン病訴訟と医療者の責任
2001年-2019年の判決で国、国会に過失医療者も被告側の立場にある。

【左】一人ひとりの“心の持ち方次第”で偏見や差別はなくなると語る青木氏 【上】入所者の人権と暮らしを守る活動に尽力した山本氏



邑久光明園の患者棧橋で当時の様子を語る学芸員の太田氏



【上】子どもの入所者が集団生活した少年少女舎。多いときで71人が生活していた 【左上】 邑久光明園の社会交流会館 【左下】 子どもたちが通った旧裳掛小・中学校第三分校。入所者が教師を務め、複式学級で勉強した



【上】 帰郷を許可されずやむなく島を逃走した入所者が入れられた監禁室 【右】 今も残る当時の落書き 【左】 監禁室は園長の権限で使用された。食事は1日1回、にぎり飯2個とたくあん、梅干し、水だけだった

から今年で63年を迎えた山本さんのお話を聞きました。邑久長島大橋の架橋運動、入所者さん

たちの処遇改善など長い時間をかけて取り組まれてきたお話に加え、ハンセン病とわかった日

のこと、浴場で視覚に障害がある入所者の脱衣係（患者作業）をしたこと、園内通貨のことな

どをお聞きしました。「ハンセン病がわかった日、人生が変わったと思った。国道1号線を行



長島愛生園の歴史館にある入所者手作りのジオラマでハンセン病療養所入所者の暮らしを伝える学芸員の田村氏

ハンセン病問題と新型コロナウイルスの共通点から
済生会の広報を考えるワークショップ

“正しい”情報とはなんだろう。
コロナ禍になにができたのか。



広報担当者が考える2日間
済生会広報実務研究会
会長 松岡志穂

済生会広報実務研究会と本部広報室は、10月19日（木）20日（金）に第16回済生会広報実務研究会（済生会記者研修共催）「ハンセン病問題と新型コロナウイルスの共通点から済生会の広報を考えるワークショップ」を開催。研究会初の1泊



筆者・松岡さん

「小樽の未来」への思い共有
講演の後は、登壇者・参加者

を交えた懇親会。村岡ケンイチさんが大きな画用紙に済生会を中心とした小樽の街を描き、そこに参加者の似顔絵を描いてくれました。参加者はそれぞれの

小樽に対する思いを書き入れました。完成したアートの前で記念撮影をし、思い出に残る一日となりました。
済生会は地域に根差した活動

を展開しています。今回のフェスティバルは、それぞれの地域課題の解決策のヒントが散りばめられた素敵な時間となりました。

2日研修に会員・済生会記者など22人が参加しました。
1日目は
国立療養所邑久光明園へ
岡山駅から40〜50分、参加者22人に乗せたバスは「人間回復の橋」と呼ばれる邑久長島大橋を渡り、国立ハンセン病療養所「邑久光明園」に到着。邑久光明園ふれあいホールで、邑久光明園の青木美憲園長、入所者自治会副会長の山本英郎さんのお話を聞きました。
医師である青木園長は冒頭「医療者の責任、私もその立場にある」と話し、「コロナ差別とハンセン病の差別は類似している。だからハンセン病を学ぶことは、この社会をより良いものにするための必要な学び」と語りました。ハンセン病についての医学的解説、誤解から生じた差別との闘い、強制隔離政策などを解説。過ちを繰り返さな

いたために「偏見のない社会」「社会の利益と個人の権利の両立」「当事者の尊厳と意向が尊重される社会」が必要としながら、今なお偏見が続いている現実を知りました。
午後からは、20歳で入所して





ではないかと感じています。「正しい」と言われた国策が「過ち」

であったため、今もお偏見と差別に苦しむ人々がいる。「正しい」とは何なのか、広報担当者としてだけでなく人として、

人権や尊厳について深く深く考える2日間になりました。

話には多岐に渡りました。ハンセン病問題の学びを通して「自分の問題として優生思想について考えていただきたい」との言葉が強く印象に残りました。



いて帰り、車に轢かれたら死ぬかと思った」という山本さんの言葉が参加者の心に重く響きました。

1930年に建てられた長島愛生園事務本館。今は歴史館となっている



グループワークで説明をする大阪府済生会ハンセン病回復者支援センターの加藤めぐみさん(左)と本部広報室の河内淳史さん

2日目は 国立療養所長島愛生園へ 朝8時から島内「さざなみカフェ」で朝食を済ませ、長島愛生園学芸員の田村朋久さんの案内で展示資料室、患者収容棧橋、消毒風呂のある収容所(回春寮)、

監禁室の跡、納骨堂を巡りました。「人間回復の橋」完成時、差別により故郷に帰れない入所者さんが「ふるさとと陸続きになったのが一番うれしかった」と言ったそうで、同じような苦しみ味わう人を作らないでほしい、と田村さんは語りました。また、新型コロナウイルス拡大期に陽性者隔離や全員PCR検査などの言葉がニュースに出る度に「わたしたらの時となにも変わっていないなあ」といった入所者さんの言葉にも触れ、ハンセン病問題を拡大して考えてほしい、正しい知識を得るために必要なのは関心であると訴えました。

当時の済生会はどうしていたのか? 帰りのバスのなかで、ハンセン病回復者の体験談として「断種・墮胎」の動画を観ました。この悲しい動画を観たあとに「無らい県運動など国策として隔離政策がなされていた時、済生会はどうしていたのか」と研究会幹事の間で議論になりました。2日間、自分事のようにこころを痛めて研修を受けていた私たちが、済生会として、医療福祉に携わる職員として、結果「加害者」であった側面はないのか、それを知る必要があるのか、

のの様子を実感する度に、私たちが各自事前学習で知り得た範疇を超える事実が圧倒されました。宿泊施設の長島愛生園「むつみ交流館」に移動した後は、グループワークを実施し、コロナ禍の広報とハンセン病問題の共通点などを話し合いました。

話には多岐に渡りました。ハンセン病問題の学びを通して「自分の問題として優生思想について考えていただきたい」との言葉が強く印象に残りました。これらの多くの学びから済生会の広報はどうあるべきか、参加者からは「正しい情報の把握」「人権を守る」「自分事として捉え発信する」「地域社会とのつながりを大事にする」「想像力をもつ」「済生会理念の視点を忘れない」などの発表がありました。

岡山で「済生会フェア」



健康なうちから病院に触れてもらう

子が映し出され、作業の様子を医師や看護師が実況しました。

5階病棟エリアはワンフロア貸し切りで、検査技師らが顕微鏡や超音波検査機器などを用いてプレパラートやゼリーを観察するブースが大人気でした。子どもたちは検査ブースをすべて回ってスタンプを集めると遊べるガチャガチャで景品をもらって喜んでいました。

今回初の企画となる済生丸VR（仮想現実）ツアーでは、瀬戸内海に面する済生会4県で共同所有する日本で唯一の診療船「済生丸」をVRワールド内で探検。参加者は3Dモデリングされた済生丸の内部をさまざまな角度から眺め、船や離島での健診事業に興味を示していました。

屋外ステージで行なわれた特別対談では地域社会への貢献をテーマに、地元サッカーチーム「フジアーノ岡山」を運営する株式会社フジアーノ岡山スポーツクラブの木村正明オーナーと炭谷茂理理事長が、誰もが地域の一員として共に暮らせるまちづくりを目指して、両者が取り組む事業について熱く語り合いました。

そのほかにもステージでは岡山商科大学附属高等学校の学生らによる吹奏楽演奏や、岡山済生会昭和町フィットネス&カルチャークラブから、KPOPダンスやフラダンスの発表、岡山うらじゃ踊り連七彩（なないろ）の演舞があり、終了の午後3時まで大いに盛り上がりました。

（岡山県済生会 広報企画課 六岡智輝）

過去最多の
76ブースが出店

街の真ん中の
病院の中心を見る！

岡山県済生会は10月15日、岡山済生会総合病院と隣接する看護専門学校で「岡山済生会フェア2023 街のまんなかの病院の、もっと中心を見に行こう」を開きました。3年ぶりとなる今回のフェアでは、同支部内の施設や地元団体、企業などから過去最多の76ブースが出店、午前10時の開場から来場者の列は途切れることなく3000人を超えました。

サブタイトルのとおり、当日は同病院の手術室や病室、内視鏡やCT設備などの検査室を開放、来場者は実際の医療機器に触れながら、リアルな医療・福祉体験を楽しんでいました。

手術室では手術支援ロボット「ダヴィンチ」を用いてブドウの皮を剥く実演が行なわれました。円形に並べられたモニター4台に映るカメラ映像には、人間の指先以上に繊細に動くロボットの鉗子の様

済生会はソーシャルインクルージョン推進計画を策定しました。
無料低額診療もなでしこプランも、この中に含まれます。
だれも排除されないまちづくりを目指し、
全支部・施設が1696事業を展開します。

イオンフードドライブと連携 1回目の提供を受ける

北海道済生会

イオン小樽店で10月5日からスタートしたフードドライブに、北海道済生会が協力することにしました。
イオン北海道は困窮者の食糧支援を目的に、道内各店舗でフードドライブを展開。地域住民が店舗内に置かれたコンテナに食品を持ち込む取り組みで、小樽は29店舗目です。
素晴らしい取り組みですが、イオンでは集めた食品を困窮者に渡す術がありません。小樽店も配給先を探しており、当会に連携の相談がありました。

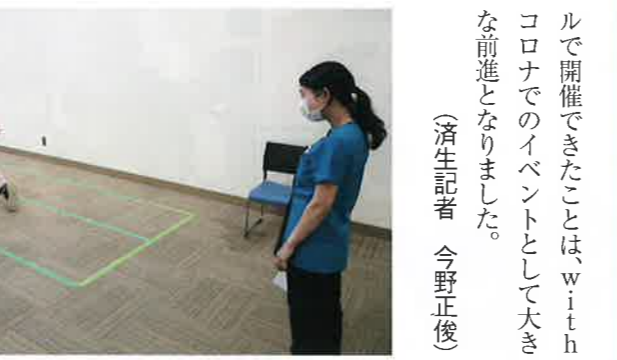


担当者として打ち合わせを済ませ、10月12日、記念すべき1回目の提供を受けました。1週間のフードドライブで集まった支援は段ボール3箱分。大切に使用させていただきます。
本活動は、イオンと連携を進める済生会にとって社会貢献できるチャンスです。フードバンク事業に興味のある施設は当会までお問い合わせください。
(ソーシャルインクルージョン推進室長 清水雅成)



市民公開講座「ロコモとフレイル」いくつになってもトイレは自分で行いたい」を、9月9日、イオンモール水戸内原で開催しました。
本講座は、当院の健康サポート委員会が地域の人々の健康維持への貢献を目的に企画。当日は、整形外科医師の生澤義輔院長によるロコモティブシンドロームに関する講演や、山田幹理学療法士、浅井佳子認知症看護士によるミニレクチャーを実施しました。
「地域住民のみなさまからのリクエストがあり、地域に元気を届けたい一心で再開しました」と、開催の経緯を語る健康サポート委員会委員長の檜山千景看護部長。
イオンモール水戸内原のホ

ルで開催できたことは、withコロナでのイベントとして大きな前進となりました。
(済生記者 今野正俊)



イオン天童で「やまがた健康フェア」 山形済生病院



9月23・24日にイオン天童で「やまがた健康フェア2023」が開催され、当院の職員10人がさまざまなイベントに参加しました。
1階ステージでは、健康増進センターめぐみのスタッフは「みんなで健康体操」(23・24日)を、糖尿病・内分泌内科の間中英夫医師は糖尿病セミナー(23日)を実施。2階イオンホール

療について講演しました(23日)。1階イオンスタイル内に設置した「ビジョントレーニング&リアクションテスト」のブースにも幅広い年齢層の方が集まりました。
各ブースには約100人が訪れ、盛況のうちに幕を閉じました。
(総務課 寒河江 淳)



では「やまがたピンクリボン運動2023」の一環で、乳腺外科の太田圭治医師が乳がん治療について講演しました(23日)。



調印式には、イオン穂波店の松岡善也店長と当院迫康博院長が出席。飯塚市が掲げるスローガン「すべての人が健康でいきいき」と笑顔で暮らせるまち 健康都市「いづか」に賛同し、イオン穂波店と当院が協力し合い、健康なまちづくりを推進していくことを誓いました。
調印式に続き開催した「健康相談フェア」には計137人が来場。医師による医療相談、看護師による血圧測定、管理栄養士による栄養相談、リハビリスタッフによる運動相談や体力測定、そして地元のフレイルサポートチームとともにフレイルチェックを行いました。
(済生記者 春口勇介)

9月18日、地元飯塚市にあるイオン穂波ショッピングセンターで、「地域市民への健康なまちづくり啓蒙活動に関する覚書」の調印式を行いました。
調印式には、イオン穂波店の松岡善也店長と当院迫康博院長が出席。飯塚市が掲げるスローガン



健康なまちづくり推進に協力 イオン穂波と覚書締結

〔福岡〕飯塚嘉穂病院

協力雇用主として 3年ぶりの受け入れ。社会復帰の一助に



〈兵庫〉特養ふじの里

当施設では、なでしこプランの社会貢献活動の一環で、協力雇用主として活動しています。コロナ禍以降は対象者がなく受け入れがストップしていましたが、今年度は神戸保護観察所から対象者1人の受入依頼があり、8月21・22日の2日間、デイサ

ービスで介護補助等の活動に従事してもらいました。

対象者は保護観察官や保護司の支援を受け、利用者さんの浴後の整髪やお茶の提供、昼食の配膳下膳など、コミュニケーションを取りながら笑顔で丁寧に対応していました。

また、福祉施設ならではの車椅子試乗や操作も体験。対象者は「車椅子の貴重な体験もでき、有意義な時間を過ごすことができました」と振り返っていました。

(管理部長心得 田中敬二)



大分DARCとともに 刑余者支援について講演

大分県地域生活定着支援センター

8月25日、大分県更生保護女性連盟全体研修会が別府公会堂

で開催され、当センターは大分DARC(薬物依存症のリハビリ施設)とともに講師を務めました。DARCは自助グループ、当センターは済生会医療ソーシャルワーカーが支援にあたる機関。立場は違いますが、生きづらさを抱える人たちの回復を信じ、日々の生活や支援に向き合う者としてメッセージを届けました。

会場には県内各地から200人を超える連盟のみなさんが参集。あたたかい心で犯罪や非行をした人たちを見守るみなさんに前に事業説明ができたことに意義を感じました。

心豊かに生きられる明るい社会づくりを目指し、今後は何か連携した取り組みができないかと思索しています。

(相談員 深川恵美)

県内唯一の更生保護施設で健康相談会

〈佐賀〉唐津病院

9月22日、当院の千布裕副院長、看護師、MSWが更生保護法人佐賀県恒産会を訪問し、健康相談会を行いました。

佐賀県恒産会は、刑務所から出所した人を一定期間保護し社会復帰を手助けする県内唯一の更生保護施設です。当院では平成22年から定期的に訪問し、入所者さんの健康・福祉相談に応



えています。コロナの影響で中止を余儀なくされましたが、昨年からの訪問を再開。感染状況に注意しながら活動を続けています。

今回は4人と面談しました。この活動がご自身の健康を見つめ直すきっかけとなり、社会復帰の一助となることを願っています。

(済生記者 相島蘭香)

4年ぶりの「済生まつり」 イオン山形北でも同時開催

山形済生病院



山形済生病院・健康増進センターめぐみ・フロラさいせいは、9月30日、4年ぶり5回目となる「済生まつり」を開催しました。今回はイオン山形北店でもイベントを同時開催することとなり、子ども連れの家族も

中心に約2000人が来場しました。

「顕微鏡をのぞいてみよう」「臨床工学技士業務体験」「白衣で記念撮影」などのコーナーでは、楽しそうに参加する子ども連れが目立ちました。また、お菓・栄養・足のお悩み相談コーナーでは「気になることが聞けてよかった」との声も。イオン山形北店では石井政



も大変好評でした。

(済生記者 柏倉汐里)

スケールメリットを生かし、 就労支援の質向上を

全国済生会障がい者 就労支援協議会

筆者は10月12〜13日に静岡済生会総合病院で開かれた「第5回全国済生会障がい者就労支援協議会」取材しました。当日は本部・支部・障がい者福祉施設から21人が参加しました。

池田和久・静岡支部常務理事と宮川栄助会長



(熊本福祉センター所長)が開会挨拶。その後、参加各施設が新たに取り組んだ事業や今後検討している事業などを報告しました。

施設間での職員交流も

民間助成団体の補助金、クラウドファンディングの活用、済生会通販サイト「なでしこファーム」の拡充、人材確保・育成についても話し合わせ、人材育成は全国済生会事務(部)長会が実施する病院間の「職員交流制度」を障がい者福祉施設間でも行う方向で話がまとまりました。

13日には静岡支部の「ワーク春日」「静岡医療福祉センター成人部」「静岡市中心障害者ケアセンター」「静岡市中心障害児福祉センター」「こいの家」の見学会も行なわれました。本協議会は201

8年に設立。障がい者の就労支援事業の質向上や受注業務の拡大、利用者の新規獲得策に取り組んでいます。今回の取材を通して、点字印刷物をリサイクルした商品開発、地元農家との協働など、障がい者就労支援の新しいカタチを創造し、その取り組みを多くの人に知ってもらえるよう、済生会の障がい者福祉施設では広報を意識して働いていることを知ることができました。

次回は(愛媛)

松山ワークステーションなどで開催を担当することも決まりました。(本部広報室 杉山菜史)

医療や福祉、 健康に関する

多彩なプログラム

福井県済生会病院では、

コロナの影響で開催を見送っていた済生会フェアを10月1日、4年ぶりに開催しました。約3700人が訪れ、多彩なプログラムとエンターテインメントで大いに盛り上がりました。お仕事体験エリア、健康エリア、支部関連のエリアなど、従来通りの人気コーナーでは多くの来場者が楽しんでいました。また、今年完成した立体駐車場の1階では、無印良品とのコラボで出張販売会や「つながる市」を実施。飲食スペースも設置され、多く

の人が訪れました。ソーシャルインクルージョンの一環として行なわれたフードドライブでは、たくさんの方が集まりました。特に注目を集めたのはお仕事エリア。お医者さん体験は、実際の電気メスを使ったリアルオペ室、内視鏡・腹腔鏡の体験、VRでのオペ体験など盛りだくさんの内容で、医療技術に興味を持つ来場者にとって貴重な機会となったと思います。放射線技術部や薬剤部など各診療技術部もブースを設け、さまざまな体験を実施しました。

ほかにも、支部の各ブースや妊産婦ブースなども人気を集め、幅広い情報や体験を提供。ステージエリアでは、当院の笠原善郎院長がコングで加わったジャズなどの生演奏を披露、来場者を楽しませていました。

4年ぶりの済生会フェアは過去最高の来場者を記録し、大成功で終えることができました。医療技術体験等のプログラム内容、地域への貢献をさらに強化し、次回を開催することが待ち遠しいです。

(済生記者 田中一弥)

福井県済生会病院が「済生会フェア」



4年ぶり開催で過去最高の約3700人来場



伊原六花

一世を風靡した
大阪・登美丘高校ダンス部の
「バブリーダンス」でセンターを
務めたことがきっかけで
スカウトされ、芸能界
デビューした伊原六花さん。
令和のシンデレラが今回、
挑んだのはホラー映画。
撮影時の苦勞や
演技の楽しさについて
聞きました。

衣装協力：
フーディードレス
[Maison MIHARA YASUHIRO /
Maison MIHARA YASUHIRO TOKYO
問い合わせ 03-5770-3291]

日本一有名な高校ダンス部から女優へ 先が読めない新感覚ホラーで主演

Text: みやじまなおみ
Photos: 安友康博
Hair & Make-up: 面下伸一 (FACCIA)
Styling: 米原佳奈

4歳からバレエを始め、子どもミュージカルを習い、高校ダンス部ではキャプテンとしてメディアに多く露出。しかし「芸能界には一切興味がなくて」、最初は右も左もわからなかったという。転機を迎えたのは2年前。舞台のプロフェッショナル俳優た

ちに出会って稽古を重ねるなかで、発見があった。「それまでは台本を読み込んで役柄のバックボーンを想像し、自分なりに表現していくのが『演じる』ことだと思っていました。ところが、人によってその場でいくつものアプローチを試しながら答えを見つけようとする人、演出

家と話し合い、じっくり考えをまとめていく人など、正解を出していく過程はさまざま。やり方は何でもありなんだとわかり、芝居観が変わったんです。私も、恥ずかしさをかなぐり捨てて、自由な発想でとにかく動いてみようと思うきっかけになりました」
今秋公開の映画『リゾートバイト』ではホラーに初挑戦。本来、怖いのは苦手だが、つくり手の一人として、いかに「恐怖」の感情を観客に持ってもらえるか、海外のホラー映画を参考にリアクションや表情を研究してから撮影に臨んだという。「とはいえ、怖いだけの映画ではなく、展開がスピーディで面白く、意外な結末を迎えるという意味ではエンターテインメント性の高い作品。新感覚ホラーを劇場でぜひ体験してみてください！」

映画『リゾートバイト』
小さな島にある海岸の旅館。桜は幼なじみの聡、希美とともに思い描いた通りのリゾートバイト生活を楽しんでいた。ところがある日、使われていないはずの2階に夜な夜な食事を運ぶ女将の姿を目撃したことにより、事態は急変していく。「このバイト、何かおかしい……」そう気づいた桜たちを予想だにしない展開が襲いかかる。
■監督: 永江二郎 ■原作: 投稿者「日向麦」 ■脚本: 宮本武史
■出演: 伊原六花 藤原大祐、秋田汐梨/松浦祐也、坪内守/佐伯日菜子 梶原善 ほか
10月20日(金)から全国公開中



いはら・りっか 1999年生まれ、大阪府出身。2017年、大阪府立登美丘高等学校で出場した「日本高校ダンス部選手権」で発表した「バブリーダンス」が注目される。高校卒業後、女優活動をスタート。18年、ドラマ「チア☆ダン」でデビュー。翌19年、『明治東京恋伽』で連ドラと映画に初主演を果たす。NHK連続テレビ小説「なつぞら」のほか、「どんぶり委員長」「シコふんじゃった!」、舞台「友達」に出演するなど、目覚ましい活躍を見せている。現在放送中のNHK連続テレビ小説「ブギウギ」、TBS火曜ドラマ「マイ・セカンド・アオハル」にも出演中。



©2023「リゾートバイト」製作委員会



口福につぼん

吉井省一



済生会は2023年度からスタートした「第3期中期事業計画」で支部未設置区の支部設立（復活）をビジョンに掲げています。

口福につぼんでは来年3月号まで、済生会支部未設置の7県の逸品を紹介しします。

私が幼少期を過ごした秋田で一番印象に残っているのは何と云っても「竿燈」です。夏の闇夜の中にぼつと浮かび上がる竿燈の灯。それが幾つも幾つも連なると秋田の街をゆらゆらと練り歩く様は、まるで夢を見ているような美しさでした。



また、千葉から引越した私は、寒い冬の夜、しんしんと降る雪にも驚かされました。庭に積もった雪の中にかかきんを入れて冷やし、ストーブを焚いた部屋で食べたことを思い出します。

さて、そんな秋田を代表する料理といえば「きりたんぼ鍋」。朝晩めっきり冷え込んできたこの時期にぴったりの名物鍋です。

城下町秋田の名料亭
こだわりの味を堪能

秋田市きつての飲食店街といえ、川反通り。私の父も昭和のサラリーマンの例にもれず、ここで会社帰りに同僚と一杯やっていたようです。

74 きりたんぼ鍋

この川反通りで大正7（1918）年に創業したのが、料亭「濱乃家」。本格的な数寄屋造りの建物は、東北でも屈指の美事なもの。秋田杉の一枚板を使った大広間や、茶道裏千家十四代家元の千宗室氏が設計した茶室「有竹庵」など、優雅な設えの料亭内で会席料理をいただくことができます。こちらの老舗料亭で供されるきりたんぼ鍋が実に美味なのです。

そもそもきりたんぼ鍋は、炭焼きや伐採などの仕事に携わっていた人たちが、ご飯の腐敗を

防ぐため、つぶしたご飯を杉の棒に巻き付けて焼いて食べていたものを、お鍋に入れたことから始まったと言われています。

その郷土料理を老舗料亭が、こだわり抜いた食材と磨き抜かれた調理法で仕上げたのが今回ご紹介するきりたんぼ鍋です。

まず、きりたんぼに使うお米は、味や食感、風味などの観点から様々な品種を試して、たどり着いたのがササニシキ。これを半づきにして、1本1本手で串に巻き付け、美味しそうな焼き目を付けていきます。



60畳、天井の高さ4mの千鳥の間（大広間）。秋田杉が贅沢に使われた造りは格調の高さを感じさせる



済生会支部未設置県

よしい・せいいち 一般社団法人日本作詩家協会理事。コピーライター時代に老舗百貨店の食の通販誌で約30年執筆に携わり、試食した食品の数は1万点を超える。

《料亭濱乃家》
秋田 秋田市

内地鶏は、丹念に育てられた産地証明書付きのものを使用。味の名脇役となる舞茸やせりなども、鮮度のよい地元産のものを使っています。

旨い米と地鶏と野菜が生み出す味わい深い鍋

このきりたんぼ鍋セットなら、



きりたんぼから比内地鶏や野菜、スープに合わせる鳥海山の伏流水まですべて入っているのだから、名料亭自慢の味をそのままご家庭で楽しむことができます。まずは、スープをひと口。比内地鶏の鶏ガラを髓が溶けるまで丸4日間じっくり時間をかけて煮込んだ醤油ベースのスープ



寒い季節、コース料理の締めが登場するのが、きりたんぼ鍋。洗練された数々の料理や酒を愉しんだ客たちも最後は優しい味わいのこの鍋で、お腹があっただけで満たされた幸せな気持ちで帰路に着く



は、醤油というよりも味噌味の濃い色合い。飲んでみるとコクがあつて旨みが濃厚。冬の冷えた体を芯から温めてくれます。このスープだけでも立派な一品と言えるでしょう。それでは気になる比内地鶏のお肉をいただいでみましょう。地鶏ならではのシコツとした歯応えと噛むほどにあふれる旨み、程良い脂のジュシーさも相まって、思わず笑みがこぼれます。いよいよ主役のきりたんぼへ。市販のものの中には、煮くずれしてしまうものがありますが、こちらのきりたんぼはご飯がしっかりとついて歯応えが違います。もちもちと弾力があるきりたんぼの中までスープや具の旨みがじんわりしみ込んでいて、一口ひと口が味わい深いのです。歯切れのよい舞茸も絶妙な食感で、緑が鮮やかなせりの爽やかな香りも食欲をかきたててくれる、心も体も満たされる逸品。きりたんぼ鍋とともに楽しみたい旨い日本酒も、秋田にはたくさんあります。乳頭、田沢湖高原、男鹿などの温泉郷もひかえているので、お取り寄せだけでなく、実際に訪れて秋田を満喫してみてくださいいかがでしょうか。



きりたんぼ鍋宅配セット（消費期限……発送日を含めて冷蔵3日間）
★2人前 6,912円（税込・送料別） [きりたんぼ4本、比内地鶏150g、舞茸50g、長葱160g、芹80g、牛蒡100g、春雨140g、スープ400cc、鳥海山自然水1000cc]
★3人前 10,368円（税込・送料別） [きりたんぼ6本、比内地鶏225g、舞茸75g、長葱240g、芹120g、牛蒡200g、春雨210g、スープ600cc、鳥海山自然水1000cc]

お取り寄せ・お問い合わせは
料亭 濱乃家 〒010-0921 秋田県秋田市大町4-2-11
TEL: 018-862-6611（受付時間：9:00～17:00） FAX: 018-864-5878
ホームページ: <https://www.hamanoya.co.jp>
通販専用: <https://shopping.yahoo.co.jp/ryotei-hamanoya/>



ニコニコ

何点取れる？

シューティング



--- 山折り
 谷折り
 ↺ 裏返す

遊び方 1

ボールを6~7個、箱に入れてコロコロ転がし、時間内にスマイルくんポケットに全部のボールを入れる



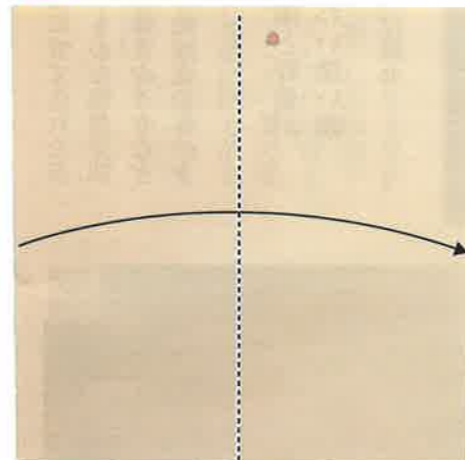
遊び方 2

箱を立てて、ボールをスマイルくんポケットに目がけて投げ入れる

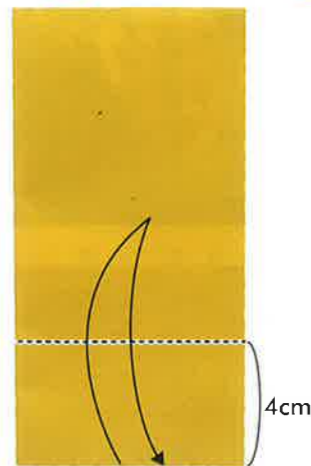


スマイルくん

1 おりがみを半分にする



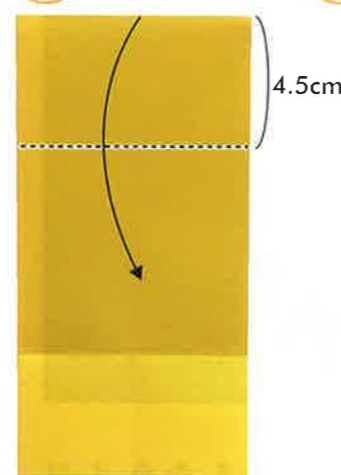
2 下の辺を折り返す



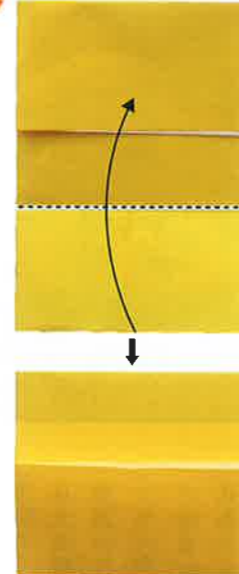
3 左の辺の下の部分だけを折り返す



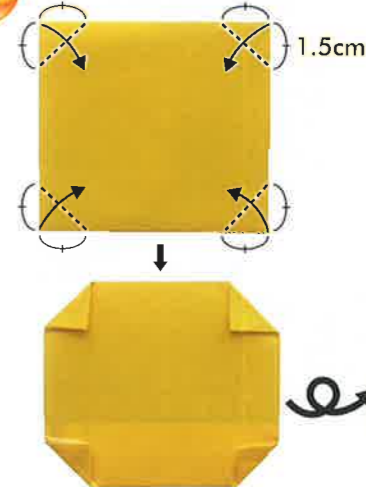
4 上の辺を折る



5 下の辺を折り、裏返す



6 四つの角を折り、裏返す



7 顔を描き、丸シールを貼り番号を書く。真ん中の折り筋でふくらませる



ボール

アルミホイルを丸めて、ボールにする



星や文字もかざって、楽しく遊んでね♡



【いまいみさ】手づくりおもちゃ作家。折り紙や牛乳パックなどをリサイクルして手づくりの楽しさを伝えています。著書に「365日の楽しい折り紙」(日東書院)、「12か月のおりがみ壁飾り」(講談社)など39冊。9月15日から新刊「1年中使える! 決定版おりがみ図鑑」(講談社)発売。



動画もcheck!

作品・折り図: いまいみさ おりがみ協力: 株式会社トーヨー



新型コロナの影響で中止が続いていた敬老会が各地で開かれ、利用者の健康と長寿をお祝いしました。

topics

開院記念日に2部署表彰

〈大分〉日田病院

開院33周年を迎えた当院では、10月1日の開院記念日にあわせ、まほろば訪問看護ステーションの開設に携わったコアメンバーと栄養部を表彰しました。

まほろば訪問看護ステーションは、医療必要度が高い方への対応や地域の実情に応じた在宅部門の充実を目指し、今年4月に開設。限られた短い期間で開設に尽力した7人に表彰状が贈られました。



栄養部は、人員不足が続く非常に困難な現状にもかかわらず、早朝業務をカバーし合い、業務を継続したことが評価されました。忙しい中でも手を抜かず、温かくておいしい食事を提供しています。

今後も職員同士で讃え合い、よりよい医療を提供していきます。

〈済生記者 石井 玲〉

★入院中から在宅まで切れ目のない支援を行なう日田病院、益々のご発展を応援しています。

〈本部広報室 杉山 菜央〉

〈愛媛〉松山訪問看護ステーション

9月2日、愛媛県松山市沖に浮かぶ釣島に、医師・看護師ほかメンバー6人で訪問しました。人口29人のこの島は病院も施設もなく、高齢化率は78%と深刻です。松山訪問看護ステーションでは年8回、土曜日に船で訪問。健康チェックや個別相談のほか、レクリエーションなどを交えながら健康に関するミニレクチャーを行なっています。

この取り組みによって島民の

健康への意識が高まり、要介護状態になるとこの島では生活できないとみなさんが感じていますが、平成13年から活動していますが、今後も継続した関わりが必要です。

まだまだ課題は多いですが、住み慣れたこの島での生活を一番に思う島民のみなさんのやさしい笑顔に元気をいただき、帰りの船に乗りました。

〈事務 小川 希代美〉

福井県済生会病院 県内初！VRシステム 手術支援ソフト導入

今年4月、VRシステム手術支援ソフトを福井県で初めて導入し、9月から本格運用を開始しました。

このソフトを使うと、CT・MRI画像から作成した3D画像が専用ゴーグルの装着によって表示されます。



手の動きで3D画像を回転・拡大でき、腫瘍と複雑に走行する血管の関係など、臓器の詳細を立体的に確認することが可能です。

また、手術だけでなく、研修医や医学生、カンファレンスでの医師・看護師への教育にも活用でき、個々の医療従事者の能力向上に役立てることで地域医療への貢献も期待されています。

ソフト導入を主導した寺田卓郎外科副部長は「手術前の臓器の3次元構造に対する理解度が大きく向上。術中もリアルタイムに確認することで、より安全な手術を行なえる」と高く評価しています。

〈済生記者 田中 一弥〉

〈神奈川〉横浜市東部病院 済生会学会・総会の記録を形に―記念誌刊行

2月11・12日にパシフィコ横浜ノースで開催した「第75回済生会学会 令和4年度済生会総会」の記念誌が、9月30日に出来上がりました。

制作は、学会事務局専任の田中美穂と広報推進室の筆者の二人で担当。写真選定から装丁の



ただくなどうれしい反応がありました。

皆で作りに上げた学会の忘れられない思い出が詰まった一冊となりました。

〈済生記者 荒木 愛美〉

〔広島〕 老健はまな荘
パワフルな百歳

9月19日、坂町の吉田隆行町長の来訪があり、今年度100歳になる入所利用者の中美代子さんに、岸田文雄内閣総理大臣からの百歳のお祝い状と記念品、坂町社会福祉協議会からのお祝い品等が手渡されま



した。

中さんは多少耳が遠いもの大変お元気で、とても100歳とは思えないほどパワフル。吉田町長からの問いかけにもハツキリと答えられていて、その場にいた人をビックリさせてました。ご家族も大変喜んでいました。

ほかの入所利用者さんや職員へは、来年2月に開催する中さんのお誕生日会で披露する予定です。

（済生記者 佐藤 聡）

〔三重〕 松阪総合病院
地元企業で出張健康講座

7月12日、特定保健指導の実施率向上のため、清水敦哉病院長と筆者（保健師）が地元企業に出張し健康講座を開催しました。対面での参加者50〜60人に加え、県外のグループ会社の方々も多数オンラインで参加しました。

清水病院長は自身の健康観を交えながら、「健康とは」というテーマで医療や健診について講演。みなさんメモを取りながら熱心に聞いていました。筆者は特定保健指導について説明

より身近に感じてもらえるように資料にかわいいイラストをいれて話しました。

今後も地元企業と連携して、健康管理や予防医療、診察が一連になるように働きかけ、地域に密着した活動を積極的に展開します。

（保健師 武田聡子）

〔栃木〕 宇都宮病院
秋のカイゼン事例で大会賞

9月22日、QCサークル関東支部栃木地区「秋のカイゼン事例発表大会」に参加したCOOKS（サークル名）が、大会賞を受賞しました。

医療技術部医療栄養科調理課12人のメンバーからなる同サー

クル。代表して宇賀神一仁調理師が「増大する食材料費の低減」をテーマに、現状把握、対策実施、効果の確認、今後の課題といったQCサークル活動の一連の流れを報告しました。

「データをグラフ化し、教育に生かすなど有効に活用している点がとてもよかった」と高く評価する大会表彰委員。



宇賀神調理師は「今後もさらにコスト削減できるように取り組んでいきたい」と抱負を語りました。

（経営支援課 宮崎 彩）

入院中の父に贈る

病棟ウェディング

〔島根〕 江津総合病院

9月25日、5階西療養病棟でウェディングイベントを開催しました。

きっかけは、入院中のお父さんへの「バージンをロードを一緒に歩き、感謝の言葉を伝えたい」

という娘さんの切なる思い。

当日は、病棟のラウンジを結婚式場に見立て、手作りのお花や風船などで華やかに彩りました。

病院スタッフ約20人が見守る



障害に関するマークを知ろう——祭りでPR

熊本福祉センター

障害理解啓発活動の一環で、8月5日（第1土曜日）に開催された「春日ほうぶらまつり」に参加しました。

当センターは「障害に関するマークを知ろう」というゲームコーナーと、ヘルプカードの紹介コーナーを設置。



1には主に小学生やその保護者が立ち寄り、ゲームを通して障害に関するマークの種類や意味、設置場所などを知ってもらいました。中にはマークを「見たことあるよ!」と言ってくれる子も。120組用意していた参加賞がすべてなくなり大盛況でした。

（相談支援専門員 住野理麻）

〈神奈川〉老健湘南苑
映画とおやつで
楽しい敬老会



9月15日、4年ぶりの敬老会を食堂で行ない、利用者さん45人が参加しました。
渡部洋行苑長の敬老お祝いのあいさつの後、映画「浅草姉妹」(1960年・日活)を鑑賞しました。上映中はみなさん集中して観ていたのか、とても静か

でした。

映画の後はおやつタイム。敬老会に合わせて和菓子と煎茶を提供しました。みなさん舌鼓を打ちながら「初めて観たけどよかった」「懐かしい映画だった」「広い場所で大きい画面で観られてうれしかった」とにぎやかに話していました。

これからも感染対策に気を付けながら、少しずつ利用者さんに喜ばれる行事を再開します。
(済生記者 本多未乃史)

〈北海道〉重症心身障がい児
(者)施設みどりの里

消防車両を配備した
大規模火災予防訓練

小樽市消防署から「令和5年度秋の火災予防運動」の啓発行事の一環として火災防衛訓練への協力依頼があり、10月16日、当施設で訓練が行なわれました。施設内のボイラー室から出火したと想定。当施設職員10人の自衛消防隊が編成され、初期消火、119番通報・避難誘導の訓練を実施しました。小樽市民が見守る中、実際に消防車両も配備される大規模な訓練は無事終了しました。



当施設では、月に1回行なわれている災害訓練を通じ、日頃から火災予防を心がけています。今回の訓練を終え、より一層、火災予防に努めていくことを職員一同心に誓いました。
(済生記者 上野孝嗣)

熊本福祉センター

食品加工棟の起工式

9月26日、関係者22人が集まり、食品加工棟の起工式を行ないました。鉄骨造平屋建て、床面積332平方メートル。パ



「ここ食品棟が建つとよ」と完成を心待ちにしています。目下、大型機械で地面をガンガン掘って埋め立ての整地中ですが、敷地の真ん中での着工となるので、これからも安全面に

レコート2面分の広い作業場が来年3月末に完成します。食品加工部門では現在24人の利用者さん・職員が、ニンジンやタマネギの皮むき、熊本市の市場から野菜や果物を預かって加工・包装する事業を行なっています。今より広くなる作業場を見込み、新規事業の開拓も検討中。済生会ウイズの利用者さ



〈大阪〉障害者支援施設
ふくろうの杜
コロナを乗り越えて
「ふくろう夏祭り」

配慮し外部の方にも不便がないように進めていきます。
(経理室 岩下かすみ)

8月3日に二課(生活介護・通所)、27日に一課(入所)で夏祭りを行ない、利用者さん47人が参加しました。コロナ感染の影響で7月から延期となり、やっとの思いで8月に開催でき



ました。
一課は大道芸のボランティアに来ていただき、二課は盆踊り。ともにたこ焼きなどの行事食を提供し、利用者さんに楽しんでいただけました。
一課の祭りに参加したボランティアの石田さんは、奈良の大道芸団体に所属する本格派。大きな竹馬(自作!)に乗ってのパフォーマンスやバルーンアートを間近に見た利用者さんから大きな拍手と喝采が沸き起こりました。
今回の夏祭りの一番の収穫は利用者さんの笑顔ですが、参加した16人の職員にとってもよい気分転換になりました。
(生活支援一課 橋本康樹)

〈福岡〉大牟田病院
購買担当者研修会で
マンダラチャート活用

10月13・14日、〈北海道〉小樽病院で開催された購買担当者研修会に参加しました。
研修を通して改めて痛感したのはデータの可視化の大切さです。中でも印象的だったのは、野球の大谷翔平選手も活用した「マンダラチャート」。3×3の



マス目を九つ作成し、中心のマスに達成したい目標、周囲の8マスに達成するためのテーマ、さらにその周りに具体的な方法等を書き込んでいくというものです。
筆者も日頃から思考整理のために書き出すことは行なっていました。簡易書き程度。マンダラチャートなら優先順位も明確になり、目標達成のアイデアをより可視化しやすくなります。当院はこれまで他の病院の事例も参考に業務改善を進めてきましたが、今回のようなツールを取り入れ、さらに高みを目指していきます。
(事務部主任 新井大亮)



で活躍できるようになりましたが、まだまだ認知度が低いのが現状。この動画を通して多くの人にその活動を知ってもらおうとともに、救急救命士を目指す学生が就職先として病院、さらには当院を視野に入れてくれるとうれしいです」と動画に込めた気持ち語ってくれました。

みなさん、ぜひご視聴ください！

(済生記者 西澤真由美)



〈愛媛〉西条老健いしづち苑
4年ぶりのだんじりに感動

9月18日の敬老の日、西条祭



りの市塚だんじりと玉津だんじりの一行が当苑に慰問に訪れました。

雨が降る中での来苑となりましたが、太鼓や鐘に合わせて両自治会のみなさんが伊勢音頭を披露。入所者さん約30人は、一緒に歌ったり拍手をしたり、「ありがとうー」と元気な声で声援を送ったりしていました。

最後はだんじりを囲んで写真撮影。「元気をもらった」「うれしかった」「涙が出そう」とみなさん感動の面持ちでした。今年当苑開設30周年の節目でもあり、とてもすてきな敬老の日となりました。

なお、当日の様子は10月14日のテレビ愛媛「ふるさと絶賛パ

自衛消防隊の練習の
成果を披露

(埼玉)川口総合病院

川口市消防局主催の「川口市制施行90周年 第46回事業所自衛消防訓練発表会」が、9月29日、川口オートレース場で開催され、当院は「消火器・補助散水栓の部」で参加しました。

当日は、屋内消火栓の部に4隊、消火器・補助散水栓の部に8隊、小型ポンプの部に3隊が参加し、それぞれ訓練を発表しました。

当院の自衛消防隊は、小日向遥さん(看護師)、土居里紗子さん(理学療法士)、上田葉奈さん(事務)、渡邊玲さん(事務)と、職種異なる4人で構成。煙ハウス体験、消火体験など、練習の成果を堂々と披露しました。



当日は、川口市南消防署横曽根分署の消防職員も見に来ており、4人に「よかったよ、そろっていたね」とねぎらいの言葉をかけていました。

(済生記者 原 衣里奈)

愛知県済生会
リハビリテーション病院
公式インスタ始めました！

当院公式インスタグラムを9月に開設しました。

ホームページ上ではなかなか院内の様子をお伝えすることができませんでしたが、今回SNSを導入することで、よりわかりやすく視覚的に情報を発信できるようになりました。

これを機に、患者さんやご家族だけでなく、地域住民にも当院を知ってもらい、身近に感じてもらえるツールの一つとして運用したいと考えています。

今後の院内の様子、イベント、クラブ活動など当院のさまざまな情報を発信していきます。ぜひ気軽にフォローしてください。

(医事・情報管理課 主事 協田由加里)



動画で紹介！
病院救急救命士のお仕事

10月4日、当院公式YouTubeに「救急救命士」の動画を公開しました。「病院で働く救急救命士の活動を広くみなさんに知

滋賀県病院

っていたきたい」と、当院スタッフが自作したものです。プレホスピタル(病院前救護)や救命センター内での業務など多岐にわたる活動内容が簡潔にまとめられています。

動画を作成した今安弘樹救急救命士は「救急救命士が病院内

「大切な看護」とは何か
部署間で発表

9月14日、当院3階講堂で「部署の大切な看護報告会」を開催し、12部署から87人が参加しました。

(山口)下関総合病院

ラエティイーよー」で放送され、皆で「映ってるー」といいながら楽しく視聴しました。

(介護福祉士 矢野元三紀)

最後に藤田恵看護部長から「各部署、患者さんに寄り添うということはどのようなことなのか、安心・安全な療養環境とは何かを深く考え、看護ができたと思います」との総評がありました。

(済生記者 下村桂子)

病棟部門では、コロナ禍で面会ができず孤独を感じている患者さんや、体がつらくて身の回りの片づけができていない患者さんに対し、リハビリなどから帰ってくる際にベッド周囲等を整えて迎えることを実施。「家族ならどう接するか」を意識して看護にあたったことを発表しました。

外来部門では、初診の患者さんの不安に寄り添うため必ず声をかけることを実



〔東京〕中央病院
女子バスケの長山さん
スポーツ庁を表敬訪問

当院で看護助手を務める長山直さんが8月24日、文部科学省内のスポーツ庁を表敬訪問しました。

長山さんは女子バスケットボール選手。今年6月にベルリンで開催された知的障害がある人



たちのスポーツ大会「スペシャルオリンピック」に出場し、銅メダルに輝きました。
当日は、スポンサーのユニクロが提供した公式ユニホームを着用し、チーム全員で訪問したこと。ハンマー投げ金メダ

リストの室伏広治長官から「これからがんばってください」とエールを贈られたそうです。
(人事課 相談員 磯崎恵午)

〔兵庫〕特養ふじの里
顔を合わせて連携研修

9月26日、兵庫県病院との連携研修をふじの里西館1階の地域交流センターで開催し、当施設職員13人、兵庫県病院の看護師8人が参加しました。

今回はデイサービス・居宅介護支援事業所・地域包括支援センター・訪問介護・ショートステイ・看護小規模多機能といった当施設の在宅サービス事業の案内を病院職員向けに実施。



病院とは入院時の連携や退院時の在宅復帰に向けた調整、介護保険申請などで毎日のようにやりとりをしていますが、主に電話によるものです。

研修の場では互いに顔を合わせ、写真や動画も見てもらいながら各事業の紹介を行なうことができました。

(ありのあんしんすこやかセンター 職員研修委員会 小俣文佳)

〔大阪〕泉尾病院

大正泉尾フォーラム
ハイブリッドで82人参加

9月16日、第28回大正泉尾フォーラムをホテル日航大阪で開催しました。

会場参加とオンライン配信のハイブリッドで実施したところ、地域の開業医の先生をはじめ82人(会場48人・オンライン34人)の参加があり、大変盛況でした。当院からは小児科の比嘉勇介院長と消化器内科の鈴木亮部長が登場し講演。特別講演として、富山大学附属病院臨床腫瘍部診療講師・副部長の梶浦新也先生に「がん治療医が実施する緩和ケアとがん疼痛治療」に関してお話ししていただきました。

抱っこでハッピー
ベビードانس

大阪乳児院

9月14日、日本ベビードانس協会の富永恵末インストラクターを招いて、大淀南医療福祉総合施設内SKホールでベビードانسの体験レッスンを受講しました。

ベビードانسとは、赤ちゃんを抱っこで踊るペアダンスで、赤ちゃんと養育者の楽しい気持ちや五感で伝わる効果があるといわれています。乳児院職員と



日本ベビードانس協会監修

在籍している子どもも12組で試してみました。

驚いたのは、抱っこ紐を正しく装着すれば体への負担を感じにくいこと。ステップを踏んでわずか数分で、子どもたちは保育士の胸の中で心地良さそうに眠ってしまいました。

レッスン中、何組かの親子の興味深げな視線を窓越しに受けました。今後、子育てに奮闘する養育者の憩いのツールとして利用できればと思案中です。
(家庭支援専門相談員 川本妙子)

〔岡山〕吉備病院

酒どころ新潟で認定資格
勉強もおいしい日本酒も

昨年、認定認知症領域検査技師資格を取得した筆者は、9月15日から17日にかけて新潟で開催された「第12回日本認知症予防学会」と「JSDP 技師講座」(資格更新のためのセミナー)に参加しました。

2025年には65歳以上の5人に1人が認知症患者になると推測されています。認知症になる人を減らし、認知症への進展を遅らせる「予防」が大切に



なり、神経心理学的検査や血液バイオマーカー、嗅覚検査などの検査が重要になります。臨床検査技師もこういう領域に積極的に参画していく時代になると思います。

3日間勉強させていただき、その上おいしい日本酒に舌鼓を打つこともでき、感謝の気持ちでいっぱいです。
(臨床検査技師 平松佳代子)

〔埼玉〕加須病院

オープンホスピタル初開催

10月6日、当院初の試みとして「オープンホスピタル(病院見学会)」を開催し、看護学生や看護師国家資格を持つ既卒看護師など16人が参加しました。

病院紹介、教育体制などを解説した後、実際に現場で働くスタッフが病院見学・座談会を進



行。特に座談会では、勤務体制や配属・異動希望だけでなく「働きやすい環境なのか」「やりがい何か」など率直な質問も飛び交いました。

一方、対応した現場スタッフは「病院案内も座談会進行も初めてで緊張したが、人に何かを伝えることの大変さや重要さを感じることで、よい経験になった」と、こちらも確かな手応えを感じていました。
(済生記者 蓬田絵里子)



その後は活発な質疑応答があり、地域連携を促進する有意義な会となりました。
(済生記者 中堂佑亮)

〈奈良〉 老健シルバーケア
まほろば

たこ焼きとビールで秋祭り

9月11・22・25日と3日間に分けて「まほろば秋祭り」を施設内で開催し、通所・療養棟合わせて109人の利用者さんが参加しました。
各階ごとに神輿巡行やお祭り



にちなんだレクリエーションを実施。食べ物はたこ焼きをメインに、施設メニューには珍しいアイスクリームを提供。飲み物はジュースのほかノンアルコールビールも用意し、「たこ焼きとビール」という最高の組み合わせを満喫していただきました。ギターやピアノの弾き語りを聴いた後は、歌謡曲を歌ったり、盆踊りを踊ったりして盛り上がり、お祭り気分を楽しんでいただきました。来年は、ぜひ屋外で盛大な秋祭りを開催したいと思います。

（済生記者 林 嘉夏）

〈大阪〉 野江病院

学術講演会に院内外86人
交流を深める機会に

9月16日、ホテルニューオータニ大阪で「第24回大阪市東部地域医療連携学術講演会」を開催し、当院職員も含め86人が参加しました。

福田和彦病院長の開会の挨拶から始まり、山岡新八副院長が当院の近況を報告。
リウマチ膠原病内科・上秋裕子部長の「関節リウマチの診療について」、脳神経外科・別府



幹也部長の「当院における最新の脳卒中治療」、消化器外科・伊藤鉄夫診療部長の「進行胃癌に対する集学的治療」、循環器内科・安珍守副部長の「実臨床データから心房細動患者の予後と optimal management を考える」と発表が続ぎ、それぞれに活発な質疑応答が行なわれていました。

城東区医師会会長・高田淳先生から閉会の挨拶をいただき、閉会。その後の情報交換会にも多くの人が参加し、交流を深めることができました。

（地域医療連携課主任 乙度陽二）

和歌山病院

骨粗鬆症をテーマに
病診連携セミナー

9月28日、骨粗鬆症をテーマにした「地域で診る、守る、骨粗鬆症連携セミナー」をホテルアパローム紀の国で開催し、地域医療に関わる専門職のスタッフなど総勢50人以上が参加しました。

当日は、当院の川上守院長が



「本当はこわい骨粗鬆症椎体骨折」を講演し、当院のリエゾンチームが中心となり、整形外科医師・リハビリテーション科・

栄養科・薬剤部から一つずつの計5題の演題発表を行ないました。

終了後、ある訪問看護ステーションのスタッフから「病院主催のセミナーに参加したのは初めて。思ったより雰囲気もよく、和歌山病院の取り組みがわかっただけでよかったです。椎体骨折についても大変勉強になりました。在宅で治療を行なっている患者さんにも検診の大切さを伝え推奨していきたい」との感想をいただきました。

（済生記者 松元靖寿）

がん征圧を目指し
たすきつなぎリレー

福井県済生会病院

がん患者支援のチャリティイベント「リレー・フォー・ライフ・ジャパン2023ふくい」が10月7日、福井市健康の森で開催されました。

当院は今年も「チームなでしこSAISEIKAI」として、患者さんを含む50人のメンバーで参加。

全員が一斉にスタートするファーストラップでは、患者さんと病院職員で作成したカラフルな手形のフラッグを持って歩き、がんに向かう団結の意志を示しました。

（済生記者 田中一弥）

〈埼玉〉 川口総合病院
感染予防へ 個人防護具の正しい着脱を学ぶ

10月5日、「埼玉県南部医療圏感染対策地域連携の会」《合同訓練》を当院と埼玉協同病院の2施設をオンラインでつなげて開催し、当院会場には30施設47人が参加しました。

今回行なった合同訓練は、2022年度診療報酬改定に伴い「新興感染症発生時を想定した訓練の開催」も感染対策向上加算の要件に入ったことを受けて、昨年度から開催しています。



内容は、昨年度に引き続きPPE（個人防護具）の着脱訓練。今年度はさらにガウン・エプロン脱衣時の身体に付着する汚染を確認するため、絵の具を汚染物に見立てて実施しました。ガウン・エプロン脱衣時、注

意して脱衣しても、衣類の前面や腕に絵の具の付着があり、正しい脱衣の大切さを改めて学ぶ機会になりました。

（感染管理室 管理師長

千葉礼子）



未来の小樽で活躍する子どもたちを応援

北海道済生会

すっかり秋め
いてきた10月1
日、小樽市内の
青園中学校吹奏
楽部を商業施設
に招き、北海道
済生会主催によ
る「ミニコンサ
ート」を企画・
開催しました。
地域の元気を応援し、市民が健
康でいきいきとした生活を送れ
る「ウエルネスタウン」構築の
活動の一環です。

同吹奏楽部は、全国大会に昨
年・今年と連続出場する強豪で
す。中央ステージで17人の部員
が演奏を始めると会場は大盛り
上がり。「YOSOB」の
曲など若者に人気のPOPな
曲を織り交ぜて演奏。終了後
はアンコールも受け、あつとい
う間の30分でした。

会場を訪れた人は「小樽では
演奏の場と機会が少なく、大き
なステージで生の演奏を見られ
てよかった」と大満足の様子で
した。

吹奏楽部のみなさん、全国大
会でも頑張ってください！
(ソーシャルインクルージョン
推進室長 清水雅成)

topics



救急業務への正しい理解を
救急業務に対する市民の正し
い理解と認識を深めるイベン
トが各地で開催されていますが、
当院も協力病院として活動し、

〈栃木〉宇都宮病院

追をする心肺蘇生法のレクチャ
ーを受けた後、6グループに分
かれ実技を行いました。
佐藤暢一 副院長と看護師5
人の指導のもと、各グルー
プとも胸骨圧迫で汗をかきつ
つAEDの使い方をマスター。
最後に、佐藤副院長から一人
ひとり修了証書をいただきました。
(本部総務課)



炭谷理事長が来院、日田市長を訪問

〈大分〉日田病院

10月4日、炭谷理事長が来
院されました。当日は病院内を
見学され、大分県済生会の西村
寛支部長、林田良三院長らと歓
談。その後、日田市豆田地区に
ある日本丸館・草野本家・咸宜
園を散策し、歴史的な展示物や
所蔵品を興味深くご覧になりま
した。

また、大分県で初の女性市長
となった椋野美智子日田市長を
訪問。椋野市長は厚生労働省出
身で炭谷理事長の後輩にあたり
ます。
今回の市長訪問の目的は「不
採算地区の公的病院等に対する
特別交付税措置」等の補助金へ
の理解を得ること。済生会が積
極的に取り組んでいるソーシャ
ルインクルージョンや、二次医
療圏唯一の公的病院として政策
医療を一手に担う日田病院の役
割について、説明していただき
ました。(事務部長 平田勝基)



万が一に備える BLS講習会

本部事務局

10月17日、BLS（一次救命
処置）講習会を本部事務局大会
議室で開催し、職員23人が受講
しました。

会議、研修等で本部に來会す
る人が増えています。一方で、
更新したAEDの使い方を知
る人は少なかつたため、お隣さ
んの中央病院に相談。BLS
講習会開催を快く引き受けて
くれました。

当日は、救急看護認定看護師・
深谷貴子さんの座学と、胸骨圧



体の安置も安全に行なえるよう
になり、車椅子の利用者さん
も気軽にお参りができるよう
になりました。

この日お参りに来た入居者の
清水みつるさんは「平らでい
いことお。来やすくなった」と好
感触でした。
(済生記者 高見友郁)

熊本病院

くまモンと一緒に手洗い

10月15日の「世界手洗いの日」
にちなんで、13日に院内保育園
「はあとランド」で手指衛生イ
ベントを実施し、園児34人が参
加しました。



今回はイベント途中に、サブ
ライズでくまモン（JICA
とコラボして感染予防・手洗
いの大切さを啓発中）が登場！
大興奮の子どもたちは、くま
モンから手の洗い方を教えて
もらったり、一緒に体操をしたり、
写真を撮ったり。「くまモン大
きかったね」「手洗い頑張る！」
と、記憶に残る楽しい時間にな
ったようです。
この経験を通じて、子どもた
ちの手洗いへの関心が高まり、
毎日の手洗いが習慣になってく
れることを願います。
(保育室 今吉美沙)

福井県済生会病院
消防操法競技大会で優勝

9月23日に福井県消防学校で行なわれた「第63回福井市自衛消防隊消防操法競技大会」のB消火栓部門で、当院の男子チームが優勝、女子チームが入賞を果たしました。



B消火栓部門は、火災が発生した場合の迅速な対応が求められる競技です。緊張感が特に高まる中、男子チームは11年ぶりの優勝を見事勝ち取りました。大会参加を通じて、安全な生活への意識向上とともに、火災

への備えと対処法を学ぶ重要性を再確認。優勝した男子チームは「火災の発生は望ましくありませんが、院内で発生した場合に迅速に対応できます」とコメントしました。

(済生記者 田中一弥)

福岡総合病院
QI大会で医療の質向上

当院は済生会の医療の質の評価・公表推進事業における臨床評価指標や日本病院会QIプロジェクトに参加。それに加えて、診療科や各部門が40項目の独自のQI (Quality Indicator) 医療の質指標) を設定し、日々QI (Quality Improvement) 品質改善) 活動を行なっています。

9月26日には第2回QI大会を開催。発表者は5人(医師2、看護師2、管理栄養士1)。他施設とのベンチマークやさまざまな根拠データを活用しながら、活動の成果や課題を発表しました。

アンケートには「改善に取り組む姿勢が素晴らしい」「各部署の取り組みと成果が見えて大変有用だった」といった感銘の



声があふれており、非常に意義深い大会となりました。

(経営企画課 新田 怜)

埼玉 川口総合病院

ミニ運動会で
パパとママも元気に

9月22日、川口総合病院の院内保育室「なでしこ保育園」でミニ運動会を開催しました。当院職員のパパやママは、仕事を調整してわが子の活躍を見にきました。

子どもたちはクラスごとにダンス発表やリレー、お玉でボー



に頑張ってきた子どもたちをいっぱいほめてあげたい」と、仕事場では見ることのできないパパとママの顔を見せてくれました。

(済生記者 原 衣里奈)

〈東京〉向島病院
合同の災害対応訓練に当院から84人が参加

7月1日、当院で墨田区、墨田区医師会および区内医療機関合同での災害対応訓練を実施し、当院職員84人を含む約160人が参加しました。

当日は震度6強の地震を想定し、トリアージ、患者の搬送、他院への転送などのシミュレーションを行いました。

合同訓練を終えた職員は、災害時の情報伝達や適切な患者対応の重要性を痛感。訓練後の会議では反省点、改善点、今後解決すべき課題について意見交換を行ないました。

昨年4月に「東京都災害拠点連携病院」の指定を受けた当院には、災害医療体制の強化が求められます。

今後も合同訓練に加え、病院独自の訓練を繰り返し実施し、災害に強い病院づくりに努めます。

(総務課 加藤義也)

静岡済生会総合病院
女性のヘルスケアを学ぶ

第2回市民公開講座を9月10日、有度生涯学習交流館(静岡



市清水区)で開催し、市民ら約30人が聴講しました。当日は、産婦人科の乙咩三三医師が「女性のヘルスケアについて考える」と題して講演。事前に寄せられた「月経不順はどうしたらいい?」「ホルモン補充療法は血中のリスクが高くなる?」などの質問への回答を交えながら、年齢とともに変化する女性の健康課題についてわかりやすく解説しました。

終了後のアンケートでは「女性ホルモンの影響について理解が深まった」といった意見が寄せられました。

次回は11月25日、手外科・マイクロサージャリーセンターの矢崎尚哉医師が「更年期の女性に多い手の痛み、しびれ」について講演する予定です。

(済生記者 酒井あい)

〈山形〉特養ながまち荘
5人に賀詞と花束贈呈

9月18日、会場を例年のデイサービスセンターホールから昨年増設した安全避難棟2階に移して、敬老会を開催しました。

今年度の祝いの対象者は5人の入所者さん。岩崎勝也施設長から賀詞と花束が贈呈されると、会場は拍手で包まれました。

代表して我妻ハナ子さんが「このような会を開いていただきありがとうございます」と笑顔で挨拶すると、再び大きな拍手が響き渡りました。



その後、若柳流師範の免状を持つ施設職員(会田るみ主査)らによる舞踊や、実習に来ていた大原学園の生徒さんたちによる花笠音頭も披露され、他の入居者さんも一緒に楽しむことができました。

(介護職員 武田公輝)

〈神奈川県〉湘南平塚病院
地域の薬局と連携し
健康フェアを共同企画



ナカジマ薬局との共同企画で、9月16日、当院に隣接する三井ショッピングパークららぽーと湘南平塚で「健康フェア」を開催しました。
当日は赤ちゃんから高齢者まで計150人が来場。ナカジマ薬局はこども調剤体験と野菜摂取量判定を実施。当院はMSWや管理栄養士、薬剤師の相談コーナー、看護師や臨床検査技師、診療放射線技師の血糖・血管年齢・骨強度・酸素飽和度のチェック、理学療法士は運動体験、人間ドックの紹介を行いました。
同会場で初めての健康フェアでしたが、参加者の笑顔に囲まれて「楽しかった」との感想をもらい、楽しい時間を過ごすことができました。

管理栄養士の未来像とは

9月30日、第11回全国済生会
栄養士・管理栄養士会が（東

（済生記者 川崎菜美）



を聞くことができました。
（中央病院 栄養管理科 城 克彦）

〈静岡県〉伊豆医療福祉センター
障害者合同チームで
太鼓全国大会へ

10月1日に開催された日本太鼓全国障害者大会に、当センター外来・入所利用者のチーム「どんつく」と地元「やわら太鼓」の合同チームで出場しました。
緊張と楽しみの入り交じった面持ちでバスに揺られ、東京へ。一泊二日の遠征の1日目（はりハ）サル後に普段と違う景色やおいしいごはんを堪能しました。



た。
そして本番当日、そろいの半被に身を包んだ24人は、凛々しい眼差しで舞台へ。演奏曲は「潮騒」です。車椅子チームの打つ小さな音から演奏が始まると、他のメンバーの太鼓も加わり、迫力を増していきました。
ドンと響く太鼓の音、バチを握る力強い拳や表情で、さながら押し寄せる波のように会場を包みこむ演奏を披露することができました。
（済生記者 竹味由惟）

〈愛媛〉松山乳児保育園
自然あふれる保育を見学

9月5日、愛媛県西予市の9園の園長先生と保育士計18人が当園を見学に訪れました。
自然素材での遊びや食事など、生活の様子をじっくりと見て回り、「話には聞いていましたが、本当に遊具がないのですね」と驚く人も多かったです。後日届いた手紙の内容を紹介します。
「自然体験や生活体験が保育の中にあふれていて、素晴らしい保育を見ることができました」
「給食で尾頭付きの鯛が出ていました。子どもたちは一匹の鯛



を見てその形や骨があることを知り、保育士の手元を見て魚の身のほぐし方を学ぶ。こういうことが食育につながるのだと思いました」
見学に来てくれたことで当園の職員も刺激になり、これからの保育を考えていくよい機会となりました。
（済生記者 別府絵里）

〈山形〉特養ながまち荘
33人がヒアリングフレイル
サポーターに

9月20日、聴脳科学総合研究所の中石真一路所長を当荘に迎えて「ヒアリングフレイルサポーター養成講座」を開催し、職員30人が受講しました。5月に受講した職員と合わせ、33人が受講済みの証である「ブルーリング」をいただきました。
「聴こえ」の課題の一つに日本の補聴器装着率が世界各国と比べて著しく低いことがあります。少ないためといわれます。さらに、難聴を放っておくと認知症を発症するリスクも高まります。

自分の聴こえ方を知り、早期



から補聴器を着用することが聴力維持につながります。
聴力チェックの機会を提供し、難聴への理解を促進するのがヒアリングフレイルサポーターの役割。当荘では今後、全職員がこの講座を受講する予定です。
（済生記者 高見友郁）

〈山形〉老健フローラさいせい
フロラ祭で大盛り上がり

9月30日、「フロラ祭」を開催し、利用者さん100人



と楽しいひとときを共有しました。
施設内は皆で協力して祭一色に飾りつけ。当日は、花笠踊りや勇壮なお神輿の姿を見ていただき、山形名物どんどん焼きやクレープ、かき氷やジュース、ノンアルコールビール等、好きなものを召し上がっていただきました。今回は併設する山形済生病院でも済生まつりを開催していたので、屋台の料理も楽しんでいただけました。
踊る職員を応援する人、屋台

めしをつまみに乾杯を楽しむ人……。みなさん大いに楽しめたよう、普段食が細い人がおかわりする場面も。
お祭りやレクリエーションは「生きる活力」の源となっていく気がします。
（済生記者 岩城伸幸）

topics

こあむしになってでんぐり返しを披露したり、保護者と一緒にボールを揺らしたりしました。

コロナ禍で身体を動かすことが難しかった園児たちも、この日は広い体育館の中を走り回ったり、踊ったり。成長した子どもたちの姿を職員も保護者と一



母や兄弟も参加して、にぎやかな運動会になりました。

2歳児の「めっちゃげんき体操」で元気にスタート。はらべ



10月2日、植込型補助人工心臓（VAD…バド）に関する勉強会を行いました。

VADは、重度の心不全状態に陥り働きが低下した心臓のポンプ機能を補助する医療機器です。

今回の勉強会開催は、当院に通院している重症心不全の患

サポート体制構築に向けVAD勉強会

緒に感じる事ができ、思い出深い一日になりました。

（保育士 西川栄美）

〈埼玉〉加須病院

「なでしこ出前健康講座」が100回超！

当院は2019年より地域貢献の一環として専門医師、認

〈石川〉金沢病院

定看護師、コメディカルスタッフ、各専門チームによる「なでしこ出前健康講座」を近隣の地域住民対象に行なっています。

途中、新型コロナウイルスにより開催中止や延期を余儀なくされることもありました。病院長もオンラインでの開催も可能に。そしてこの秋、累計講演数が100を超えました。

また、地域の要望に応える形で講演内容を充実させ、開始当時の全12講座から、今年10月現在で全24講座まで増えました。



10月2・3日、済生会本部の奥野史寛危機管理専門員と事業基盤課・見浦継一企画員を招いて、災害に対する訓練と研修会を開催しました。

1日目は、地震が発生した想定で職員の安否を確認する通報訓練を実施。15人が参加し、発災後5時間を経過して約6割の職員から安否についての回答がありました。

2日目の研修会には、併設の特養たかね荘等の職員も加わり45人が参加。災害対策本部の立ち上げや初動等についての講義の後、実際に災害対策本部を立ち上げるの演習を行いました。

終了後のアンケートには「当事者になった自分を想像して恐ろしく感じた」「何をすべきかパニックになって動けない」「自分に何ができるのか難しい」な

災害に対する訓練・研修会 職員の危機意識高まる

今後も本講座が当院と地域の方々の交流の場となり、さらに当院を身近に感じてもらうきっかけとなればと思います。

（済生記者 中川範彦）

〈広島〉老健はまな荘



ど危機意識の高まりを感じさせるコメントが多く、この研修会の効果の高さをうかがい知ることができました。

（済生記者 佐藤 聡）

福井県済生会病院 運動会、完全復活！

秋晴れの空の下、10月14日に福井市東体育館で院内保育所「ぼっかばか園」の運動会を開催しました。

昨年は新型コロナウイルスの影響で2歳児のみ11人で実施しましたが、今年は完全復活。全クラスの園児28人と保護者、さらには祖父

者さんが、東京女子医科大学病院で植込型左室補助人工心臓（LVA）の手術を受けたことがきっかけです。退院後、VADを装着しながら在宅療養を行なううえで、患者さんをサポートする存在が必要不可欠とされています。

勉強会では、東京女子医科大学循環器内科医師、臨床工学士3人が講師を務め、当院からは医師や看護師、臨床工学士やリハビリ科スタッフ約30人が参加。患者さんへの対応や機器の管理方法など、充実したサポート体制の構築のために学びました。

（済生記者 蓬田絵里子）

〈福岡〉大牟田病院

サポートセンター 開設2年余、施設基準に

当院では2021年4月、患者サービスの充実のため患者サポートセンターを開設しました。退院支援の必要な患者さんへ退院支援計画の作成から関わることスムーズな退院支援が行なえ、病棟業務短縮の一助にもなっています。

活動の幅は徐々に広がり、外来フロアへ患者相談窓口を設置



し、各病棟での退院支援カンファレンスにも参加。入院説明、基礎情報聴取・電子カルテ入力までの一連の入院支援も担当しています。その結果、今年6月に施設基準をいただくことができました。

時間内は入院・外来患者さんがいつでも立ち寄れるような環境づくりを行ない、車椅子の介助や手続き等で困りごがないように取り組んでいます。

これからも患者さんのご意見やつぶやきに耳を傾け、サポートができたと思えます。

（患者サポートセンター課長 徳永はるみ）

topics

〈兵庫〉 特養ふじの里 自作のおやつは格別

8月29日、少しいい材料を使った「スイートポテト」を入居者のみなさんで作りました。「いつも一緒のおやつばかり」「美味しいものが食べたい」という声を聞き、リハビリも兼ねて自分で作ったものを食べてもらおうと企画した「おやつレク」です。

各入居者の前に大きなボールとマッシュヤーを置き、芋をつぶしてもらってから開始。そして手で丸めたりスプーンを使っ



たりして、いろいろな形のスイートポテトができました。バターの香りがユニット内に広がり、こんがり焼き色がついたところで、自作のものを味わってもらいました。

普段おやつを食べない人も「甘すぎずおいしかった」と完食。「またやりたい」との声もあり、今後も簡単なものから始め、少し難しいものにも挑戦できたらと思っています。

（西館ユニットリーダー 山下七重）

〈栃木〉 宇都宮病院 高齢者の施設を知ろう

9月20日、今年度2回目の中

と題した講演を、画像や動画を用いて行ないました。

続いて、石田美津子管理栄養士が「脳梗塞予防のための食事」について講演。栄養指導中に患者さんからよくある質問をタイムズで出題し、回答を示すと会場から「へえ〜」という声があがっていました。

質疑応答では参加者からたくさん質問の手が挙がり、とても関心を持って聞いていただけたのだとうれしく感じました。

（経理課 三好亜惟）

山形済生病院

健康増進センターめぐみ おかげさまで25周年

平成10年にオープンし、今年で25周年を迎えた健康増進センターめぐみ。これを記念して9月29日に「めぐみまつり2023」を開催し、延べ350人が来館しました。

今回は、会員さん有志による一芸パフォーマンスや、パッチワーク・絵画・工芸品などの作品展示があり、ちょっとした文化祭並みに盛り上がりました。そしていつも大人気の、めぐみスタッフによるダンス。今年は



央ブロック連携会議をオンラインで開催し、地域の医療・介護関係者のほか行政職を含む51人が参加しました。

今回のテーマは「高齢者の施設を知ろう」。特養とちの木荘、介護老人保健施設ようなん、宇都宮介護医療院、有料老人ホームさくらがおかII、サービス付き高齢者向け住宅星が丘の担当者、それぞれの施設の特徴などについて説明しました。

講演後の意見交換会では、肯定的な感想を多くいただきました。稲見一美地域連携課長は「住まいが多様化した現在、何を選

花笠踊り、UFO、ジンギスカンに熱狂していただきました。10年、20年と継続して通っている人が多く、めぐみとともに成長(?)してくださいました。

〈愛媛〉 松山特養

最高齢は102歳! めで鯛、敬老会

9月17日に敬老会を開き、入居者さんと一緒に作成した作品の飾りつけやプレゼントの贈呈など、長寿のお祝いをしました。

当施設では、毎年95歳以上の入居者さんを対象に長寿の表彰を行なっています。今年是最高齢の102歳を筆頭に14人のみなさんを表彰しました。

この日の目玉は、愛媛県魚類養殖協



のみなさんと互いに感謝の気持ちを分かち合い、健康を喜び合う楽しいイベントとなりました。

（健康増進センターめぐみ 課長代理 遠藤美子）

会から寄贈いただいた養殖真鯛です。みなさんに召し上がっていただき、まさにめで鯛、敬老会を行なうことができました。

（済生記者 畑中利恵）

扱し、何を重要視したらいいか迷うことも多いと思う。今後もさまざまな施設との顔の見える連携を通じて関係づくりができるとうよい」と会議を振り返りました。

（地域連携課 秋山綾香）

〈愛媛〉 松山病院 脳梗塞を予防しよう!

9月6日、松山市役所三津浜支所で家族介護教室が開催され、



地域住民64人が参加しました。はじめに、当院脳神経外科の楠勝介医師が「脳梗塞について」

〔群馬〕前橋病院

赤城山ヒルクライムに
救護班として参加

赤城山を自転車で駆け上がる「まえばし赤城山ヒルクライム大会2023」が、9月24日に行なわれ、当院スタッフ（医師2人、看護師6人、DMAT業務調整員2人）が救護班として参加しました。

スタート地点の「道の駅まえばし赤城」に救護本部が設置され、コース途中に当院スタッフと救急車両を配置するなど万全の体制で救護業務にあたりました。

爽やかな秋晴れのもと2008



9人が疾走。負傷者は、小児の打撲や落車による成人の大腿部外傷があったものの、適切な救護を行なったことで大きな事故には至りませんでした。

朝6時から目をこすりながらの参加でしたが、秋の澄んだ風を感じながら、有意義な活動となりました。

（医事課主任 川田伸之）

〔大阪〕野江病院

心不全のACPを考える

9月14日、医療従事者を対象にした研修会「のえ心不全 地域連携の会」をハイブリッド開催し、Web16人を含む計61人が参加しました。

はじめに「心不全のACPを改めて考える」と題し、久留米大病院高度救命救急センターの柴田龍宏先生に講演をお願いしました。

その後は「心不全の緩和ケア、何がむずかしいか？」をテーマに、当院医師、救急認定薬剤師、緩和ケア認定看護師、心不全療養指導士を交えたフリーディスカッション。

「ACPは人生の終末対応の結論を出すことではなく、患者さ



んに寄り添っていくプロセス」という講演内容をもとに積極的なディスカッションが行なわれました。

参加者からは「改めてACPの重要性を認識できた」などの意見をいただきました。

（看護部8階東病棟 看護師長 西内ゆかり）

熊本県済生会

OB会に
過去最高の164人

熊本県済生会は9月16日、4年ぶりにOB会をANAクラウンプラザホテル熊本ニュー



スカイで開催し、過去最高の164人が集いました。OB会は1993年に「城北なでしこ会」として発足。現在は「熊本県済生会OB会」と名称を変え、OB会員と現職との親睦の場になっていきます。当日は、久しぶりの再会に会

場入り前から会話の花が咲き、総会後の懇親会は大いに盛り上がりました。席から離れ、会場のあるこちらで再会を喜ぶ光



景が見られました。

恒例となった長寿のお祝いでは、卒寿をはじめ8人に熊本福祉センターほほえみのパン工房ふわりのギフトセットを贈り、にぎやかな雰囲気。

不安を取り除いて支援を必要とする人へ

〔鳥取〕境港総合病院

障害者支援施設「もみの木園」の通所者Aさんは医療行為に強い抵抗があり、当院医師と看護師が施設を訪問して新型コロナウイルス接種を行なってきました（8月号「トピックス」P50に掲載）。

7月、Aさんが送迎中にけいれん発作を起こしたとことで、当院にご家族と施設から相談がありました。

大田麻紀副看護部長はすぐに受診につなぐ調整を開始。ご家族や施設関係者には診察内容やリスクなどを丁寧に説明し、不安を少しずつ取り除いていきました。

9月12日、施設職員とご家族に付き添われAさんは当院を受診。看護師たちは「名探偵コナン」のTシャツを着て対応するなどアニメ好きなAさん

OB会員からは「また来年も楽しみにしているよ」「開催してくれてありがとう」など、たくさんの方の感謝と励ましの声をもらいました。

（済生記者 木村智子）

の緊張を和らげる工夫をし、多数の関係者に見守られ無事に診察・検査を終りました。

ご家族は大変感激し「今回のことをみなさんに知ってもらいたい」と話していました。

（済生記者 亀尾美子）

筑紫女学園大学で
BLS講習

〔福岡〕二日市病院

10月5日と13日の2日間にわたって、包括連携協定を結んでいる筑紫女学園大学の学生・大学職員を対象にBLS（一次救命措置）講習会を実施しました。

講習会には学生23人、大学職員42人の計65人が参加。実技を中心に講習を行ない、胸骨圧迫の大切さや周りの人に助けを求めることの大切さ、AEDの

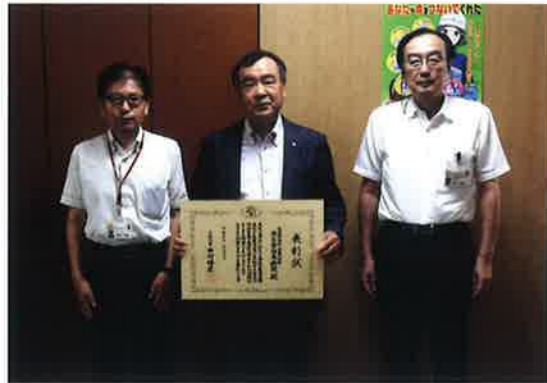


正しい使い方などを学んでもらいました。

参加者からは「協力がくるまで胸骨を圧迫し続けることが大切だとわかった」「今回のような場面に遭遇しても自信を持って行動できそうです」などの意見がありました。

今回インストラクターを務めたのは、看護師ではなく院内で講習を受けた医療技術職・事務の職員。一般の人にレクチャーをすることで、病院職員にも多くの気づきがありました。

（済生記者 久富大史）



救急医療功労者知事表彰

〈愛媛〉西条病院

なるような存在になりたい」と博士号取得の喜びを語りました。
 (済生記者 原 衣里奈)

県内救急医療体制の整備充実への貢献と救急医療に関する功績が認められ、9月4日、「愛媛県救急医療功労者知事表彰」を受賞しました。

当院は昭和33年に赤松病院の寄贈を受けて、済生会西条病院として発足。以後今日まで、西



〈愛媛〉松山老健にきたつ菟家族とともに楽しむ一日

9月16日、4年ぶりにご家族を含めた敬老会を、当苑多目的ホールで開催しました。

当日は、利用者さん約70人、ご家族約50人が参加。よさこい団体の「華魅・ハナビ」の華やかな踊りやパフォーマンズを見ていただき、家族同席の喫茶も行ないました。

「久々に一緒に過ごせてよかった」「華やかな踊りも観させてもらいました」とご家族。利用者さんは「楽しかったね。踊りがすごいねー」「私も昔踊りをしていて、お裁縫をして着物を作っていたのよ」などとお話しました。

利用者さんにご家族に充実した一日を過ごしていただき、スタッフにとってもいい日になりました。

(介護福祉士 土居美咲)

〈鳥取〉境港総合病院頼もしい医師が仲間入り

常勤の眞砂俊彦医師着任の辞令交付式を、10月2日、当院会議室で行ないました。

条市の公的中核医療機関として地域医療に貢献してきました。愛媛県東予地方局で行なわれた授賞式で、岡田眞一院長は「新居浜・西条二次医療圏の二次救急医療機関として救急患者の受け入れ、そして地域のかかりつけ病院としての役割を果たし、今後もさらなる救急医療体制の充実・強化に努めていきたい」と決意を述べました。

(済生記者 大仲 均)

〈福岡〉飯塚嘉穂病院ちよっと遅めの夏祭り

10月4日に緩和ケア病棟で夏祭りを開催し、患者さんら10人が参加しました。

季節はすっかり秋ですが、新型コロナウイルスの影響で夏にお祭りができなかったため、この時期の開催に。

参加した患者さんは緑日の屋台で売られているようなお面を頭につけ、記念写真を撮り、かき氷を味わっていました。お風呂あがりだった方からは「冷たくておいしい」という声が上がりました。

当日は、当院の演奏グループ「K's Music Club」メンバー

「K's Music Club」メンバー



〈埼玉〉川口総合病院「保健学博士」の学位を取得

9月、当院で「医学物理士」として従事している放射線技術科の西山史朗さんが、金沢大学大学院医薬保健学総合研究科の博士課程を修了し、博士(保健学)の学位を取得しました。

西山さんは2019年、同大学院で実施している長期履修制度を利用し、社会人学生として入学。平日は仕事後、土日は自宅近くの図書館で研究活動をし、論文に取り組んだとのこと。

「思うような結果が得られず、



幹部職員が見守る中、鳥取県済生会の稲賀潔支部長から辞令書が眞砂医師に手渡されました。日本泌尿器科学会の専門医および指導医である眞砂医師は、さらに泌尿器科領域における腹腔鏡下手術の技術認定資格を持っています。

眞砂医師は「今までに当院で行なっていたいなかった泌尿器科手術の拡充に努めるとともに、近隣の先生方との連携を密にし、泌尿器科医療で地域に貢献したい」と抱負を述べました。

頼もしい仲間がまた一人増えました。

(済生記者 亀尾美子)



の三石敬之副院長と喜多良晴主任作業療法士の演奏も。

三石医師はトロンボーンで「クロース・トゥ・ユー」を、喜多主任作業療法士はユーフォニアムで「まつり」ほか3曲を披露しました。

(済生記者 松岡亜希)

〈大阪〉中津病院不審者対応訓練 刺股や護身術なども実践

9月19日、曾根崎警察署の協力のもと危機管理研修として「刃物を所持した不審者に対する対応訓練」を実施し、職員約80人が参加しました。

北棟2階の総合受付で、不審者役の警察職員が隠し持った刃



物を取り出し騒ぎ出すという設定。警察署員の迫真の演技に緊張感が走りましたが、駆けつけた職員と警備員は椅子や刺股で応戦し、カウンター前に追い込みました。

110番通報から警察官が到着するまでのあいだに、負傷者が出ないよう持ちこたえるためのポイントや不審者との間合いなど、アドバイスをいただきました。

その後は刺股の使い方を体験。ほかにも腕をつかまれたり、後ろから体を抱え込まれりした際の護身術なども実践で教えていただき、一人ひとりが防犯意識を持つって行動できることの大切さを実感しました。

(済生記者 鈴木亜希乃)

〔大阪〕野江特養城東園
長寿の秘訣は……

敬老のお祝い会を9月14日に行ない、百寿2人、米寿8人、喜寿1人の入居者さんに記念品と職員手作りの色紙を贈呈しました。

また、今年度中に100歳を迎えられる人には、内閣総理大臣の名が記された表彰状と記念品（金杯）が届きました。当園には、最高齢の102歳、今年100歳を迎えた2



人と合わせて、3人の100歳超えの利用者さんが入所しています。百寿のみならず長寿の秘訣を聞くと「よく食べて、よく寝て、そしてよく笑うこと」とのこと。入居者のみなさんにとつまでも心穏やかに笑って過ごしていた

に、職員一同、今後ともさまざまな知恵を絞って介護にあたっていきます。

（係長 佃 一博）

岡山済生会総合病院
全国から39人が参加
購買担当者研修会

全国済生会事務（部）長会コストマネジメント部会の購買担当者研修会が10月13・14日、（北海道）小樽病院で開催され、全国から購買担当者39人が参加しました。

はじめに部会リーダーの千田茂樹当院事務部長が、第3期中期事業計画のKPIである「医療材料ベンチマーク・D判定割合20%以下」の早期実現に向け活動を強化すると報告。続いて富山病院、（福岡）二日市病院、京都済生会病院が事例発表を行ないました。

2日目はグループワーク。野球の大谷翔平選手も活用したという「マンガラチャート」を用いて、購買担当者に必要な能力を身に着けるにはどのような取り組みが必要かを探りました。終了後のアンケートでは「取組事例が具体的でとても参考に



なった」「業務のモチベーションが上がった」など、前向きな意見が続出しました。

（資料課長 田尾伸幸）

〔奈良〕老健シルバーケア
まほろば

健康カフェで
地域住民と交流

9月21日、桜井西ふれあいセンター分館で開催された「健康カフェ」（桜井市地域包括支援センターさきほう主催）に、施設、居宅介護支援事業所など



来訪者は60人程度。事前に配布していたチラシを見て、あるいはケアマネジャーの声掛けで50〜90代の幅広い層の参加がありました。

また、多くの人が桜井警察の「子どもたちの非行被害防止メッセージ大作戦」に協力。子どもたちに向けたメッセージを書いてもらいました。

（済生記者 林 嘉夏）

患者さんに寄り添う看護を
これからも

（滋賀）守山市民病院

回復期リハビリテーション病棟を退院した患者さんから、9月19日、車椅子購入のための寄付をいただきました。

寄付に際して病棟スタッフへの感謝の言葉をいただきました。

く中で、特に印象的だったのは洗濯に関するエピソード。入院中の洗濯物はご家族が持ち帰っていましたが、都合で来院できない期間があり困っていたとのこと。そこで当院看護師が「リハビリを兼ねて病棟のコインランドリーと一緒に洗濯しましょう」と提案。特別なことではないとスタッフは話しますが、喜んでいただけようです。

今回の寄付で整備した車椅子

〔兵庫〕特養ふじの里
いつまでもお元気で

は計12台。入院患者さんのより一層の機能改善のため、活用させていただきます。

（済生記者 中嶋元香）

9月16日に、敬老祝賀会を開催しました。対象者は喜寿・傘寿・米寿・卒寿・白寿・百寿・のみなさん計25人。松永りか所長が一人ひとりに、お祝いの言葉と一緒に感謝状と家族からの手紙を手渡しました。

（西館 介護士 荒川昌憲）

謝の言葉に加え、「いつまでも元気でいてくださいね」などのメッセージが多く、読まれた人は「うれしいね、ありがとう」「私の息子からや」とうれしそうに微笑んでいました。感極まり涙を流す人もいて、とても感動しました。

続いて、お祝いイベントとして手作り楽器を使い入居者・職員と一緒に「きよしのズンドコ節」の音楽に合わせて演奏を楽しみました。

今年も家族は窓越しでの見学でしたが、来年こそは皆でお祝いでできればと思います。



〔栃木〕宇都宮病院
親子で救急医療を学ぶ

8月25日、宇都宮市保健所主催の「救急探検親子バスツアー」が開催され、市内の小学3〜6年生と保護者約21人が来院しました。

まず、小倉崇以救命救急セン



ター長が県内の救急医療の現状を、佐々木俊一救急救命士がドクターカーの役割について説明。その後、救急外来や緊急撮影などを行なう放射線装置、さらに

はドクターカーの車内を見学してもらいました。

普段見ることができない医療現場に、親子ともに興味津々。熱心に医師・救急救命士の説明を聞く姿が印象的でした。ツアー参加者は当院のほか、夜間休日救急診療所や消防署も見学するそうです。

（済生記者 川原彩花）

〔山形〕特養やまのべ荘
大盛り上りの
サツマイモ収穫祭

10月3日、入居者さん10人とショートステイ利用者さん1人と一緒に、敷地内の畑に植えた



サツマイモの収穫を行ないました。

皆で協力して掘り起こすたびに歓声が上がリ、大盛り上りの収穫祭となりました。

最後に、一番大きなサツマイモと一緒に記念撮影。「こんなにでっかいのもあるんだ」と改めて驚く人や、芋づる（芋の茎の部分）の調理方法を職員に伝授してくれる人もいました。

収穫したサツマイモは、同月24日に焼き芋してみなさんに食べてもらいました。

（済生記者 大滝美結）

〔埼玉〕川口総合病院
交通安全賞章「緑十字銅章」

9月19日、埼玉会館で行なわれた令和5年度交通安全功労者等表彰式で、当院の安全運転管理者である人事・総務課の本橋和宏さんが交通安全賞章「緑十字銅章」を受章しました。

本表彰は全日本交通安全協会が実施するもので、多年にわたる自動車の運転を通じ交通事故の防止と交通秩序の確立に貢献、功績のあった人に贈られます。受章に対して本橋さんは「この度の受章は、若輩の身ではあ

りますが、大変光栄なことですが、この受章を節目として、気持ち新たに、これからも安全運転管理者として職員の交通安全・交通事故防止に注力し、当院・地域・社会に貢献していきたいと思っております」と喜びを語りました。

（済生記者 原 衣里奈）



〔埼玉〕加須病院
一次脳卒中センター
コア施設に認定

当院では、地域で発生した急性期脳卒中に対し、24時間365日患者さんを受け入れ、血管内再開通療法を含む適切な治療を行なってきました。

替えお茶会」を行ないました。

当施設では食堂を利用する際、空いている席を見つけるのが困難な視覚障害の入居者さんに配慮して、同じ席に座っていただくことをルールとしてきました。しかし、「普段話すことのない人と話してみたい」との要望があり、席替えお茶会を企画しました。



茶会は終始和やかな雰囲気。初めは口数が少なかったみなさんですが、慣れてくると徐々に会話もはずみ、笑顔で思い思いの会話を楽しんでいました。

（済生記者 丹 秀樹）



そうした診療体制を強化するとともに、同療法の年間治療実績数等が認定要件を満たしたことから、4月1日、日本脳卒中学会の「一次脳卒中センター（PSC）コア施設」として認定されました。さらに整備の一環として、脳卒中治療を受けた患者さんとそのご家族が安心して生活できるよう、療養の支援や情報提供を実施しています。

今後も急性期脳卒中治療の一層の充実を図り、地域医療に貢献していきます。

（済生記者 蓬田絵里子）

〔福岡〕大牟田病院
託児所ひまわり、再出発

当院に開設されていた「託児所ひまわり」が、今年4月から株式会社メディアフェアの委託運営となり、新たにスタートしました。現在、0〜2歳児の子ども（登録者7人）が異年齢保育で過ごしています。

ひまわりでは、自分も友達も大切にできること、喜びや悲しみを分かち合えるよう「ありがとう」や「ごめんさい」が素直に言えることなどを目標に日々、保育に取り組んでいます。



最近では、小さい子が泣いたり困ったりしていると、年齢の大きい子が自然と手を差し伸べてお世話をしたり、おもちゃをそっと渡したりする光景も。友達を思う気持ちが少しずつ芽生えている姿に、うれしさを感じています。

（保育士 下川めぐみ）

〔山形〕養護（盲）老人ホーム
席替えお茶会で交流

9月27日、当施設食堂で「席



健診施設機能評価で優良施設に認定

岡山済生会外来センター病院

む力を鍛えよう」の講座を担当。嚙下力チェックには参加者に交じってスタッフの当院職員もチャレンジ。皆それぞれに老いを実感する結果となったことは言うまでもありません。

講演ブースのほかに看護・おくすり・医療費相談コーナーを設置。こちらにも多くの人が立ち寄りました。ミニ講座と相談コーナー併せて80人ほどが参加し大盛況でした。

(済生記者 齊藤一篤)



当院の岡山済生会予防医学健診センターは、4月28日に日本人間ドック学会の「健診施設機能評価」を受審し、7月6日に優良施設として認定されました。安全で正確な検査やプライバシー保護などさまざまな評価基準を満たしていること、さらに男女別フロアの構成や要精密検査を治療につなげる体制が整っていることなども評価されました。

認定申請に携わったスタッフ(看護師、事務、臨床検査技師、医師など多職種)は「各種マニ



医療のおしごと体験

(三重) 松阪総合病院

今年で13回目となる「オープンホスピタル」を8月2日に開催し、近隣の高校生39人が参加しました。

毎年開催する当イベントでは、高校生が医師や看護師ほか医療従事者の仕事を体験できるコーナーを設置。参加者は腹腔鏡下で鉗子を使ってミカンの皮をむいたり、内視鏡を使って異物を除去したり、静脈注射シミュレーターを使用した注射に挑戦したりしました。

進路相談のブースでは、医師や看護師だけではなく、管理栄養士や公認心理師に関する質問にも対応しました。

体験後のアンケートでは、ほとんどの参加者が「満足」と回答。「進路に迷っていたが、今日体験して医療従事者になりたいと思った。病院内の雰囲気もよく、将来一緒に働

きたい」との感想もありました。(経理課 辻 竜也)

PONTA像が拓本に!

(大阪) 千里病院

当院西玄関前の「PONTA像」が10月、拓本になりました。拓本とは、石や金属に彫られた文字や模様を原型通りに墨などで紙に写し取ったものです。

PONTA像は世界的彫刻家の流政之氏の作品で、当院マスコットキャラクター「ポンちゃん®」はPONTA像をキ



ヤラ化したものです。今回、拓本というアートの題材にPONTA像を取り上げてくれたのは、北千里拓本クラブ会長の久藤昭太郎さん。拓本になったPONTAは、凹んだ部分は白く、凸部分は黒く表現され、彫刻のおおらかでユーモラスな雰囲気味わいに加え、力強さも伝わってきます。拓本作品は、10月30日に千里ニュータウン情報館で開催した「済生会千里病院創立20周年記念イベントパネル展示」で展示し、多数の来館者に見ていただきました。

(済生記者 秋山みゆき)

もしもに備える、ミニ講座

(神奈川) 横浜市南部病院

10月6日、当院に隣接する商業施設「港南台パース」で開催された「港南台イロドリフェスタ」に、もしもに備えるをテーマにした複数のミニ講座を出展しました。

救急診療科・豊田洋医師は「心肺蘇生法」、緩和医療科・木村尚子医師は「がん診断されたら」、古賀はるみ摂食・嚥下障害看護認定看護師は「飲み込



宇都宮大学の学生に済生会の活動を講義

(栃木) 宇都宮病院

9月25日、宇都宮大学の基礎教育科目「ダイバーシティ社会」の中の男女共同参画「フィールドワーク編」の一環で、同大学の学生3人と川面充子特任教授が来院しました。



稲見一美地域連携課長が、済生会の成り立ち、当院の活動事例とともに相談支援事業の重要性や病院と地域との連携の意義を説明。教育学部の学生から「こんなふうに寄り添った支援ができる教員になりたい」との感想をもらいました。

当日は講義だけでなく、ドクターカーの見学も。救急・集中治療科の木村拓哉医師、藤田健亮医師が、車内のさまざまな医療機器について説明しました。

工学部生の「将来こんなふうに関わることがあるかもしれない。可能性が広がった」といった感想が印象に残っています。(地域連携課 秋山綾香)

〈埼玉〉加須病院
DMATが国の訓練に参加

政府主導による大規模地震時医療活動訓練に、9月30日、当院救命救急センターの福島史人医師、薬剤部の増尾直亮科長、北澤京祐看護師が参加しました。今回の大規模訓練は南海トラフ地震を想定し、四国・九州プロックを被災地としたもので、全国から326病院341チーム（約1600人）が参加。その中で当院DMATは、さぬき市民病院へ支援に入り、協働して患者さんの受け入れを行ないました。

「訓練だからこそ得ることができた課題もあり、大変有意義な時間となりました」と増尾科長。今回の訓練で得た学びや課題をもとに災害発生時の体制を強化し、地域の災害支援に尽力できるように取り組んでいきます。

（済生記者 蓬田絵里子）



福岡総合病院

がんサロンで
アロマセラピー体験

9月22日に「がんサロン」を開催しました。当院ではがん患



者さんとその家族を対象に毎月1回、座ってできるヨガやピアサポーターとの語り合い、メディカルアロマセラピーなどを行なっています。

当日は9人が参加。一般社団法人ICAAの岩橋知美代表による講義「リンパ浮腫とアロマセラピー」を聞き、セラピストによるハンドマッサージを体験しました。

メディカルアロマセラピーはリンパ浮腫に対する補完療法の一つで、精油（エッセンシャルオイル）の香りを嗅いだり塗布したりすることで、患者さんの身体的・精神的苦痛を緩和させることができます。

当日は9人が参加。一般社団法人ICAAの岩橋知美代表による講義「リンパ浮腫とアロマセラピー」を聞き、セラピストによるハンドマッサージを体験しました。



ように」と、てるてる坊主を作りました。

願いがかなって、当日は晴天。待ちに待ったお昼の時間には、友だちとお弁当箱を見せ合いながら、おいしそうにご飯を頬張る姿が見られました。

帰宅後も「楽しかった!」「おもしろかった!」と話す子が多く、家庭での会話がとて盛り上がったようです。

（済生記者 齋藤里奈）

静岡済生会療育センター

ハレ☆ばれカーニバル

10月7日、当センターでお祭りを開催し、入所さんやご家族、地域住民、職員合わせて約100人が参加しました。

当日は「ハレ☆ばれカーニバル」という名前にぴったりの晴れ晴れとした一日。キッチンカーの出店、歌やダンスなどのパフォーマンスステージ、センター職員が描いた個性あふれる海の生き物たちを釣る魚つりゲームなど、楽しいブースが並びました。

競技ダンスを披露してくれたのは、療育病棟の高橋美保看護

る効果があるといわれています。精油の使用上の注意など、参加者からは積極的に質問があり、「もっと頻繁に開催してほしい」という声もありました。

（経営企画課 山田愛梨）

山口地域ケアセンター
思いかなえるコンサート

9月11日、利用者さんと実習生と職員のコラボによる「ふれあいコンサート」を開催しました。



ソーシャルワーク実習で当部署に配属となった実習生の橋本侑那さんが、音楽が好きで視覚障害のある利用者Aさんの「相

談員と歌や音楽を合わせられたらいいな」という思いをかなえるために企画。コンサート開催に向け、職員もバイオリンやチェロなどの楽器を練習しました。

当日はAさんの歌を中心に12曲披露。他部署に配属されていた実習生や利用者さん、職員も聴きに来てくれました。

たくさんの方の力で作り上げることのできたコンサート。Aさんは「また次につなげたい」と、今回できたご縁に感謝していました。

（やまぐち障害者生活支援センター 相談員 則近あゆみ）

〈山形〉はやぶさ保育園
大満足のあおぞらランチ

10月11日に3歳児20人、18日に4歳児15人と5歳児21人が「あおぞらランチ」を実施しました。

持参したお弁当箱に給食室でおかずを詰めてもらい、青空の下、園庭やウッドデッキでランチを楽しむこのイベント。久しぶりの実施に子どもたちは数日前からワクワクしていました。3歳児はイベント前日に雨が降ってしまい、「明日は晴れます



師長。「師長すてき!」「かつこよかった!」とみなさん大絶賛でした。

入所さん、ご家族、地域のみなさんの笑顔があふれるすてきなお祭りになりました。

（済生記者 大須賀彩音）

緩和ケアについて一緒に
考えてみましょう

熊本病院

10月2〜6日の「緩和ケア週間」に合わせた院内イベントを集学的がん診療センターがん総合支援室を中心に行ないました。病院正面玄関ほか院内3カ所には、緩和ケアに関するパンフレットやポスターを展示。がん

相談員（MSW）やがん関連の認定看護師（緩和ケア・がん性疼痛看護）に相談できるブースも設けました。

また、イベントとして名譽院長の副島秀久医師（フルート）や市川洋一薬剤師（ピアノ）による演奏会、金光敬一郎緩和ケアセンター長によるミニ講話を毎日行ないました。

期間中は本イベントシンボルカラーのオレンジ色に病院をライトアップし、参加者の「願い」で形作られる「Wish Tree」も設置。訪問者は延べ100人を越え、「演奏に癒やされた」「緩和ケアについて見直すきっかけになった」などの感想がありました。

（済生記者 東 賢剛）



消火技術訓練で優良賞

神奈川県病院

9月22日、区内の公園で開催された自衛消防の訓練大会に参加し、当院チームは3位・優良賞を獲得しました。

施設内での初期消火技術を競う本大会には、

当院を含む区内の企業等の職員31人が参加。当院は「消火栓操法（4人）」の種目に看護助手、救急救命士、臨床検査技師、放射線技師の組み合わせで参加しました。

神奈川県は工場が多く、自衛消防活動を日常的に行なっている企業が多く参加する中、優勝のハードルは非常に高く、その中で3位入賞できたことは評価に値します。

中でも4人が連携して行なう消火栓操法は、特に日頃の成果が表れるといわれる種目。この日のために地道に練習してきた成果が実を結びました。（管財課主任 川口 良）



〔石川〕金沢病院
臓器移植への理解のために「命のキャラバン」

9月14日、「命のキャラバン」運動の一環で、NPO法人石川県腎友会の山本富士夫理事長はじめ4人が来院しました。

同会は臓器移植への理解を深めるため、「命のキャラバン」と銘打ち県内の臓器提供協力病院等を訪問する活動を行なっています。平成11年から毎年実施し、コロナ禍で令和2年度から中止していましたが4年ぶりに再開。今年度は県内31の医療機関を訪問することです。



〔神奈川〕湘南平塚病院
日枝神社で出張健康講座

9月11日、平塚市の日枝神社で健康講座を開催（地域包括支援センターと共催）し、当院リハビリテーション技術理学療法士の入野隆仁科長と藤田拓海主任が講師を務めました。

当日は80代を中心に13人が参加。高齢者の関心度が高い「腰痛・肩こり・膝痛など日常の注意点と改善方法」をテーマに、実演を交えた講義を行ないました。

当日は80代を中心に13人が参加。高齢者の関心度が高い「腰痛・肩こり・膝痛など日常の注意点と改善方法」をテーマに、実演を交えた講義を行ないました。「日常生活での姿勢の注意点が

よくわかった」「寝ている時の姿勢も大切だとは知らなかった」「トイレの座り方や立ち上がり方がわかりやすく、楽しく参加できた」といった感想をいただきました。（事務部長 笠原 満）



東神奈川リハビリテーション病院
台湾・アメリカから見学者言葉の壁を越えて交流

日本作業療法協会の依頼を受け、4月に台湾の作業療法士1人、8月にアメリカの作業療法学生3人の見学を受け入れられました。当院リハビリテーションセラピスト部には、ニューロリハビリ

リテーション用ロボティクスデバイスである「タイロモーション（Tyromotion）」をはじめ、さまざまな機器が導入されています。見学者にはロボット訓練の機器や器具などに加え、日本文化



を背景とした作業療法を説明しました。また、実際の患者さんとのやりとりを見てもらい、折り紙などの活動にも一緒に参加してもらいました。最後に、台湾とアメリカの作業療法の現状をそれぞれ発表してもらいました。各国の医療の状況や作業療法の地位の違いがわかり、驚きと発見がありました。（作業療法士 平村 徹）

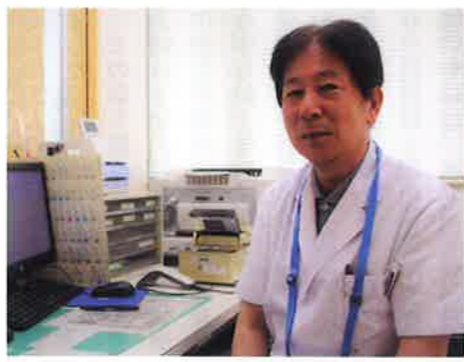
山口地域ケアセンター
大谷選手の記事に
当院医師が解説で登場

湯田温泉病院内科部長の東祐一郎医師が週刊誌「女性自身」の電話取材を受け、9月12日発行の同誌記事内にコメントが掲載されました。

右肘靭帯損傷で今季の登板を断念した大谷翔平選手に、現地日本人会が温泉療法を勧めているとの記事で、温泉療法の具体的な効果について東医師が解説しています。

「これを機に、湯田温泉病院の温泉を利用した水中訓練希望者が増えることを期待しています」と東医師。東医師は温泉療法医の資格を

取得し、湯田温泉病院で温泉プールを活用した脳卒中後遺症のリハビリや、変形性膝関節症、腰痛など整形に関する治療を行なっています。（済生記者 楊 玉華）



〔愛媛〕西条病院
新棟で10月から診療開始

9月22日、愛媛県済生会の関啓三会長、岡田武志支部長の臨席のもと、院内外関係者約50人を迎えて、西条病院新棟完成記念式典を執り行ないました。

挨拶に立った岡田眞一院長から「新しい機能を有する病棟で、安心安全な高度医療を提供していきたい」との抱負や、関係者への謝意を示す式辞が述べられ



新棟は令和3年10月に建築着工、今年6月に完成。準備期間を経て9月29・30日には職員総出で引っ越し業務を行ない、10月1日に患者搬送を実施。同日診療を開始しました。新病院への移転は、職員間の団結力と強固な連携でスムーズに完了しました。今後も職員一丸となって、新居浜・西条二次医療圏の保健・医療・福祉を担いたいと思います。（済生記者 大仲 均）

topics



が詩舞や「おてもやん」の踊りを、実行委員が「大きなかぶ」の寸劇を披露。みなさん思わず見入っていました。最後は、お東子が当たる三択クイズのゲームを行ない、終始盛り上がりました。実行委員中心に職員一丸となり準備してきた甲斐もあり、当日はみなさんのたくさんの笑顔を見ることができ、とても

神奈川県病院 なでしこ保健室が大盛況



10月8日、地域の公園で開催された「神奈川区民まつり」に、当院は「なでしこ保健室」で参加。無料の健康相談や血圧測定、乳がん相談・触診体験などを行ないました。オープン前から順番待ちの列ができるほどの盛況で、様子を見に来た長島敦院長が急きよ、健康相談ブースに応援に入りました。相談内容に応じて看護師だけでなく管理栄養士や薬剤師も専門的なアドバイスを行なうなど、利用者からはとても参考になったとの声をいただきました。また、乳がんの相談・触診体験にはがん化学療法看護認定看護師のほか、同じく様子を見に来た乳腺外科の土居正和副院長に解説いただくなど、こちらも大変好評でした。終了時間近くになっても順番待ちの列は途切れず、終わってみれば延べ157人の利用がありました。

職員合わせて約50人が集い、敬老会を開催しました。はじめに卒寿と米寿のお祝いを行ない、表彰状と記念の写真を立てて贈呈しました。続いて演芸の時間では、職員

ありました。

(済生記者 小山友輝)

診療放射線技師長会

タスク・シフト／シエアで意見交換

第1回全国済生会診療放射線技師長会ブロック会議が、9月28日、熊本城ホールで開催されました。当日は役員と、北海道から九州までのブロック代表10人が集結。事前にブロック内で話し合われた各施設のタスク・シフト／シエアの取り組みの現状・課題を中心に意見交換を行ないました。



よい敬老会となりました。

(介護福祉士 遊子谷陽美)

熊本病院

北里柴三郎ゆかりの熊本小国で、移動映画館

第76回済生会学会で基調講演を務める北里英郎先生(北里柴三郎記念館館長／北里大学名誉教授)のお招きにより、9月23日、「cinema bird(シネマバード)」B 熊本小国2023」に参加しました。cinema birdは全国各地に劇場体験を届ける、俳優の齊藤工氏発案のプロジェクト。第12



タスク・シフト／シエアへの

取り組みは、先駆的に取り組んでいる施設がある一方、どのように実現していくかを模索している施設が多いことがわかりました。今後は、医療の質を担保しながら安心・安全な医療を提供していくことが重要になると考えられます。

今回は、静脈確保のタスク・シフトを実現している川口総合病院の好事例を取り上げ情報共有する予定です。(小樽病院 済生記者 松尾寛志)

宇都宮病院

20人が宮つ子チャレンジ

宇都宮市主催の社会体験学習「宮つ子チャレンジウィーク」の体験施設である当院は、今年度6校20人の中学生を受け入れました。

この取り組みは、月曜日から金曜日までの連続した5日間、中学生が地域の人々と触れ合いながら勤労体験やボランティア活動などを行なうものです。「将来は医療関係で働きたい」という生徒が多く来る当院では、9～11月に4回の体験学習を実施。今年度は、薬剤部・看護部・



医療技術部の各部門での見学や体験のほか、ヘリポート見学やDMAT隊模擬体験、救急蘇生法の講習会なども行ないました。終了後は「それぞれの職業が協力し合って成り立っていることがわかった」「初めて知る職種があり将来なりたいと思う

た」など、さまざまな感想が書かれた多くのお礼の手紙が届きました。(済生記者 川原彩花)

笑顔あふれる敬老会

9月13日、当園に利用者さん、

弾の今回は、公衆衛生の礎を築いた北里柴三郎生誕の地・熊本県小国町に医療従事者1000人が無料招待され、熊本県済生会支部からは職員とその家族70人が参加しました。

トークショーやライブなどのイベント前には北里柴三郎の生

特等席で4年ぶりの花火

8月26日、4年ぶりに開催された「金沢まつり花火大会」を、施設の「特等席」から満喫しました。

金沢まつりの花火は、地元・横浜市金沢区の夏の風物詩。当日は金沢区の人口19万人を大きく上回る25万5千人が会場の「海の公園」に集まり、広い砂浜が人で埋め尽くされました。

入居者さんは屋上と4階のベランダに陣取り、歓声を上げ拍手をしながら、東の夜空に



涯をまとめた映像を視聴し、北里英郎先生直々に記念館を案内していただきました。参加者からは「済生会学会との関連性を身をもって感じる事ができた」といった感想が多く寄せられました。(済生記者 東 賢剛)

打ち上げられる3500発の鮮やかな花火を鑑賞。夜風にあたるのも久しぶりで、途中で部屋に戻る人もいましたが、多くの人が職員とともに1時間の花火を楽しみました。花火大会の鑑賞は2020年7月に現在の施設に移ってから初めて。来年はご家族と一緒に鑑賞できるようにしたいと思います。(施設長 清水 雅)

〔大阪〕泉尾病院
無料送迎バスの看板設置

「無料送迎バスの停留所位置、発着時刻がわかりづらい」との患者さんからの意見を受けて、9月に停留所や電柱へ看板を設置しました。



当院では現在、大阪市大正区内を網羅する形で2台の無料送迎バスを運行しています。これまで、昨年には増車・走行ルートを拡充し、今年7月には運行ダイヤを改正するなど、患者さんのニーズに応えるべくサービス向上に努めてきました。

写真のように、地域のみならず「泉尾病院のご支援・ご協力をいただくことができ、心から感謝しています。今後も地域のみなさんとともに、地域の医療を守ってける



B8s」を導入しました。新装置はディープラーニング技術で生成されたAIフィルターを用いることで、従来の装置より少ない被曝で高画質な映像が撮影できます。また、Stent Viewという機能の搭載により血管内デバイス

ようサービス向上に努めていきます。(済生記者 中堂佑亮)

全国済生会事務(部)長会
安全で質の高い
保育所運営を目指して

全国済生会事務(部)長会の院内保育研究会を9月15日に当院で開催し、全国から40病院64人(Web参加24人含む)の参加がありました。

当日は基調講演のほか、保育園見学、事例発表、分科会などを通じて、院内保育をめぐるたくさん課題と向き合いました。第1回ということで会の運営



のマーカ―をAIが認識し、血管内デバイスを中心に1コマずつ重ねて撮影していきます。これにより通常は心拍で動いて見えるデバイスを静止させ、リアルタイムで強調して見ることができ、より正確な位置への手技が可能になりました。新装置の導入を機に質の高い医療を提供し、地域医療へのさらなる貢献に努めていきます。(診療放射線技師 吉村翔吾)

実習を10日でクリア
経験を現場で生かしたい

長崎病院

当院では、長崎市消防局の要請を受け毎年、救急救命士資格取得のための「気管挿管病院実習」を行っています。しかし昨年度は、コロナの影響で消防局の救急搬送件数が急増し、救急隊の人員不足により予定されていた実習が中止。今年度も実施が危ぶまれましたが、9月5日から開始することができました。

今回参加した実習生の平井悠喜さんは「1年間待ちました！」と意欲満々。修了要件の30症例

に不安もありましたが、今後は保育所同士の横のつながりを生かし、安全で質の高い保育所運営に役立つ会になると期待しています。

アンケートには「今までは相談や比較できる対象がほとんどなかったが、法人内で情報交換できる本研究会はとても有意義だった」「自身の保育を振り返り、見直すことができた」といった意見が寄せられました。(静岡済生会総合病院 済生記者 酒井あい)

〔鳥取〕境港総合病院
職員4人が学会発表
多職種連携をテーマに

9月23日に国立病院機構米子医療センターで開催された日本医療マネジメント学会鳥取支部学術集会において、当院職員4人が発表を行いました。清水ひとみ主任看護師は「転倒転落アクシデントゼロへの取り組み」、松本和典経営企画課課長補佐は「多職種協議を通じて改善立案につながった取り組み事例の報告」と題して講演。ポスター発表の部では、阿部直子主任看護師が「当院の訪問

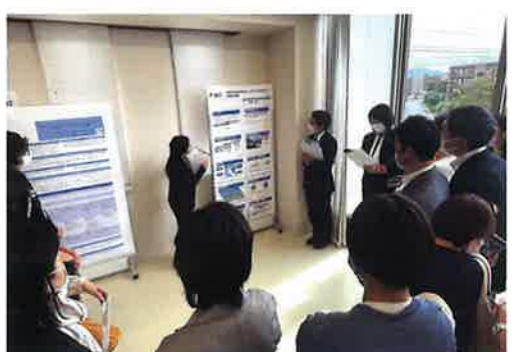
をわずか10日間で達成しました(スゴイです!)。修了証授与の際、実習担当医師である諸岡浩明副院長の「地域医療のため今後の活躍を期待しています」との声掛けに対し、「早く現場に戻ってこの経験を生かしたい!」と元氣よく答えていたのがとても印象的で、救急隊員の強い使命感を感じました。(済生記者 平川幸子)

第4回虹の아트展
テーマは「秋」

〔東京〕中央病院

当院では、障害のある方々が描いた作品を展示する「第4回 虹の아트展」2023・AUTUMN 秋日和」を10月16日から11月10日まで開催しています。

今回のテーマは「秋」。絵画やさおり織が20点ほど展示されています。四季を通して作品の色合いが変わるので、毎回観る者の目を楽しませてくれます。来場者の中には毎回訪れ、作品への感想を寄せてくれる人もいます。「来場者のみなさんが毎回楽しみにしてくれるのが何よりうれしいですね」と、共催する虹色の風・平山淳子代表。



診療立ち上げから定着までと今後の課題」と題して発表しました。大田麻紀副看護部長はシンポジウムに登壇。「適正な病床選択を行なうための多職種協働」について話しました。134人の参加者は皆真剣な眼差しで聞き入っていました。(済生記者 亀尾美子)

〔山口〕下関総合病院
最新血管撮影システム
「Trinias B8s」導入

アンギオ装置(循環器用バイプレーン装置)の更新に伴い、9月25日、島津製作所最新機種「Trinias(トリニアス)



〔福井〕特養聖和園
米寿・白寿のお祝い会

9月20日から3日間、当施設
デイサービスで長寿のお祝い会
を開催しました。



対象者は、米寿・白寿のみな
さん総勢13人。園長の挨拶から
始まり、職員による花笠音頭、
和太鼓、マツケンサンバに歌謡
ショー、また市内のボランティア
の方々によるオ
カリナ、津軽三味
線に津軽の民謡の
演奏と盛りだくさ
んの内容でお祝
いしました。
一人ずつ、お祝
いの色紙を贈呈。
「まさかこんなふう
にお祝いしてもら
えるなんて、夢に
も思っていない
でした。みなさん
のおかげでなんと
かここまでやって
こられました」と、
中には声を震わせ涙ぐむ人も。
非常に心温まる会となると
もに、88年、99年という歳月を
生き抜いてきたみなさんに畏敬
の念を抱かずにいられませんで

〔ほのぼのmore!〕
DX推進
熊本福祉センター

当センターは、9月1日から
障害福祉支援記録・請求管理シ
ステム「ほのぼのmore!」を導
入しました。かがやき、ほほえ
み、ウイズ、グループホーム、
相談支援センター、事務局で使
用します。

本システムは、クラウドサー
ビスで支援記録や請求を一括し
て管理できます。データの安定
性や保存性が高まるだけでなく、
タブレット端末を使うことで利
した。(済生記者 野尻 宗)



用者さんの近くでバイタルや支
援記録をつけられるようになり
ました。
新たなシステムの導入に伴い、
使い方を覚えたり運用を見直し
たりとやることは盛りだくさん
ですが、職員一丸となって、よ
りよい支援と適切な請求を行な
っていきます。
(総務室長 熊谷 誠)

〔山口〕下関総合病院

座禅と写経でリフレッシュ

10月3日、城下町長府にあり
る功山寺で新人職員33人のリフ
レッシュ研修を行いました。
功山寺はあの高杉晋作が挙兵し
た場所として歴史に名をとどめ
ています。
3年ぶりの研修でしたが、住
職は「済生会のみなさんが来ら
れるのを待っていました」と温
かく迎え入れてくれました。
法話の後、作法に従い坐禅を
組みましたが、皆足を組むだけ
で一苦勞。「般若心経」の写経
では、心を落ち着けて一文字一
文字丁寧に筆を運びました。秋
風に揺れる木の葉の音や、鳥の
かすかなさえずりが心地よく聞
こえました。



研修を終え、心身ともにリフ
レッシュ。研修参加者は「明日
からまた、患者さんにより良い
看護をしたい」と気持ちを新た
にしたようでした。
(副看護部長 関野尚子)

〔鳥取〕境港総合病院

境港水産まつりで
救護と健康相談を担当

10月8日、日本有数の水揚げ
量を誇る境漁港で「第37回境港
水産まつり」が開催され、当院
は救護と健康相談コーナーを担
当するかたちで参加しました。
当日は、内科部長兼地域医療



〔福岡〕大牟田病院
未知なる感染症に備えて

総合支援センター長の岡野淳一
医師も参加し、看護師、保健師
とともに健康相談にあたりまし
た。高齢者だけでなく若い世代
も予想以上に立ち寄り、計62人
からの相談がありました。幅広い
世代のみなさんが健康につい
て考えるよい機会になったと思
います。
救護要請は1件。医師と保健
師が迅速に対応し、当院の救急
外来へ搬送しました。
(済生記者 亀尾美子)

10月13日、近隣施設担当者
と管轄保健所立ち合いのもと、新
感染症を想定した入院シミュレ
ーションを実施しました。久し
ぶりに全身防護具を着用した搬
送には緊張感もあり、本番同様
の気持ちで臨みました。
シミュレーション後の会議に
は約30人が出席。参加施設、保
健所担当者からも活発な意見が
寄せられました。職員からは「も
しにも備えたシミュレーション
は大切だと思った」「久しぶり
に実践すると忘れていた部分も
あり、参加してよかった」など



の声が上がりました。
定期的なシミュレーションに
より「想定外」の新興感染症を
「想定内」として対策できると
考えます。今回のパンデミック
の経験を忘れず、乗り切った実
績を自信に、感染症への備え、
対策を継続していきます。
(感染管理認定看護師
中村友美)

〔神奈川〕横浜市東部病院
見て、学んで手をきれいに

10月11日、当院併設の重症心
身障害児(者)施設サルビアの
プレイルームで、花王株式会社
によるリモート工場見学と手洗



い講座が行なわれ、入所者さん
9人が参加しました。
前半は、同社川崎工場で洗剤
が作られる様子をリモートで解
説していただきながら見学。さ
まざまな機械によって容器に洗
剤が充填されたり、製品が倉庫
に運ばれたりする様子を、みな
さん面白そうに見ていました。
後半は、手洗い歌できれいに
手を洗う方法を学び、その後手
洗い実践を実施。特殊なライト
に手をかざして、きれいになっ
たかどうか、スタッフとともに
参加者のみなさんも楽しそうに
確認していました。
(済生記者 荒木愛美)

topics



10月16日、宇都宮病院保安担当と宇都宮東警察署の協力のもと、防犯訓練を実施しました。「興奮した入所児の親が子どもを連れ帰ろうとする」という想定で、訓練には相談支援員2人と事務職員4人が参加。事前に各自で想像していたものの、興奮した親役の警察官の迫真の演技に気おされ、必死に子どもたちの居室から遠ざけようとするのが精いっぱいでした。

初めての防犯訓練で たくさんの方の反省と学び

〈栃木〉宇都宮乳児院

3色に彩られる 啓発キャンペーン

福井県済生会病院



毎年10月は「ピンクリボン月間」「脳卒中月間」「臓器移植普及推進月間」として、各地で啓発キャンペーンが展開されます。10月1日に当院で開催した済生会フェアでは、各キャンペーンのシンボルカラーであるピンク・ブルー・グリーンのリボンをつりに結び、おセレモニーを実施。当院でもこれらのキャンペーンがスタートしました。

施設の垣根を越えて 意見交換

〈栃木〉特養とちの木荘



第16回関東北信越地区職員研修会を、9月29日にライトキューブ宇都宮で開催しました。1都9県の高齢者施設の持ち

について、ポスター掲示や講習などを実施。立休駐車場のライトアップも行ないました。来院者がさまざまな疾患について理解を深め、適切な治療を受けることの大切さを意識するきっかけとなることを願っています。

（済生記者 田中一弥）

ChatGPTの研修会 業務効率化の第一歩！

〈栃木〉宇都宮病院

9月20日、「ChatGPT活用による業務効率化について」と題した研修会を開催し、事務職員をはじめとする80人以上の職員が参加しました。

講師は

株式会社エンジェルホールディングスの仁尾遥介氏。ChatGPTの基本的な使用方法を説明するだけでなく、議事録作成やプレゼン資料の骨子作成など、実務への応用例を具体的に紹介してもらいました。

（済生記者 大久保彰子）

ほかの職員は不審者侵入を知らせる放送を受けて、子どもとともに鍵のかかる室内へ避難する動きを確認しました。

訓練後の講評には院長・保育課長と保育士含め10人ほどが参加。訓練中の対応への評価と指導を受けました。

その後、ホールで刺股の効果的な使用方法を指導していただきました。

歌はいいね！

〈新潟〉特養長和園

（済生記者 杉浦良和）

10月18日、今月も当園が運営するAOZORA介護予防教室で「歌の集い」を開催し、10人が参加しました。

月1回開催する「歌の集い」。演奏や歌が得意な3人の職員が毎月交代で担当し、ギターで伴奏しながら歌って参加者と一緒



に楽しみます。この日は「高校三年生」「上を向いて歩こう」「星影のワルツ」「ふるさと」など懐かしい曲を皆で歌いました。「おめさん、上手だね」「いい声だね」といった職員へのお褒めの言葉だけでなく、「歌は

いいね！ 気持ちも晴れ晴れする」「ここに来て歌った日の夜はよく眠れるのよ」「来月も楽しみ」など、毎回たくさんのお礼の言葉をいただいています。

（済生記者 西川まゆみ）



参加者からは「ニュースで耳にはしていたが、イメージが湧いた」「業務に取り入れて効率化を図りたい」「使用したことにはなかったが、まずは触ってみたい」などの肯定的な意見が多く寄せられました。

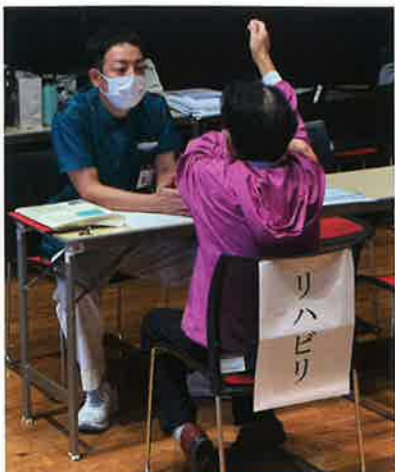
ChatGPTに対する新たな見方や、業務効率化のための活用方法のヒントを得るよい機会となりました（ちなみに、この文章もChatGPTを活用して作成しました）。

（済生記者 川原彩花）

市民健康福祉まつり 70人からさまざまな相談

〈大分〉日田病院

10月8日、市民健康福祉まつり



りがパトリア日田と日田市中央公園で開催されました。4年ぶりの通常開催で、当院は多職種による各種相談（がん、健康、医療、栄養、リハビリ）のほか、正しい手洗いの指導、血圧測定、神経伝達速度測定などで参加しました。

会場では、運動をする際に不安に感じていることを聞き、どのような運動が効果的かなどをアドバイス。また、健康寿命の延伸を目的に県が作成した「めじるん元氣アップ体操」をもとにした運動指導も実施しました。雨天での開催となりましたが、約70人の参加者からさまざまな相談が寄せられ、市民の健康意識の高さを感じることができました。

（主任理学療法士 梶原丘行）

〈大阪〉 中津病院
開院107年を祝う

第107回済生会中津病院開院記念式典を、10月10日、西棟13階の大講堂で開催しました。川嶋成乃亮総長、志手淳也院長の式辞に続き、来賓の讃岐富男大阪府済生会常務理事から祝辞を賜りました。その後、嘉門記念賞・各施設長賞・中津同窓会賞・センター学会賞、勤続5年職員（83人）が表彰。また、新たな名誉職員の称号が1人に

授与されました。

今年は、普段非公開の北棟2階の嘉門記念室（昭和初期に中津病院改築のため多額な寄付をいただいた嘉門夫妻の記念室）を開放し、来賓の方々や職員、来院者に病院成り立ちのビデオなどを観てもらいました。中津病院の歴史を振り返るとともに、今後のセンターとしてのさらなる発展を期待させる式典となりました。

（済生記者 鈴木亜希乃）



〈神奈川〉 湘南平塚病院
院内学会で10題の発表

第25回院内学会を9月9日に開催しました。当会は臨床研究の活性化や日々の活動成果の発表、職種の垣根を越えた相互理解の促進などを目的として、1997年に第1回を開催。以降、新型コロナウイルスの影響で中止となった20・21年度を除き毎年開催しています。

当日は84人の職員が参加し、院内から9題、老健湘南苑から1題の計10題の発表がありました。1年間かけて調査・研究された内容は、いずれも考えさせられるものが多く、会場では活発

な質疑応答が行なわれました。こうした活動が病院全体のレベルアップにつながるものと期待しています。

選ばれた2題は、来年1月に熊本で開催される済生会学会での発表を予定しています。

（事務部長 笠原 満）

全国済生会整形外科学術研究会

学術集会を長崎で開催
全国・地元医師28人参加

9月16日、第6回全国済生会整形外科学術研究会が長崎病院で開催されました。

コロナ5類移行後初の開催となる今回、当院の衛藤正雄院長



が総合座長を務め、全国の済生会病院や地元長崎の開業医の先生等総勢28人が参加。活発な意見交換が行なわれました。特別講演として、長崎大学大学院歯歯科総合研究科整形外科学講師の千葉恒先生に「骨微細構造から捉えた骨粗鬆症の病態と治療戦略」の演題でお話をいただきました。

症例発表では「80歳以上の高齢者における上肢の骨折について5年間の後ろ向き調査」や「高齢者の橈尺骨遠位端開放骨折について」など、6症例の発表がありました。内容は整形の専門領域のもの

載々

済生会の職員が寄稿した記事が、掲載された雑誌等を紹介しす

RFIDを活用した
手術室DXについて紹介

滋賀県病院 杉浦資材課長

月刊「新医療」2023年11月号（エムイー振興協会）の総特集「進む医療DX―具体的成果を問う」に、当院の杉浦暢彦資材課長が「RFIDを活用した手術室DXは

現場と施設運営に何をもたらしたか」を寄稿した。RFID（ICタグと電磁波を用いた非接触での情報やりとり）システム導入の経緯から効果、今後の展望について述べている。

近年の手術件数増加に伴い、手術室スタッフの業務負担は大幅に増えている。そこで当院では多部門が協同して業務改善に取り組んできた。その一つとして2020年にRFIDのシステムを導入し、手術室で使用した医療材料が医事会計システムまで一気通貫で連携する仕組みを構築。部分最適から全体最適へつなげる業務改善を行なった。



「いる」と筆者は締めくくっている。
（済生記者 西澤真由美）

福井県済生会病院

明るい呼びかけで
交通安全への意識を向上

9月21日から30日までの10日

ばかりでしたがとても興味深く、筆者も時間を忘れて聞き入っていました。

（長崎病院／済生記者 平川幸子）

間実施された「秋の交通安全県民運動」の一環で、当院の榮修一警備主任が、正面玄関前の横断歩道で交通安全啓発活動を行いました。

榮警備主任は、往来する車や職員に明るい声であいさつを交わしながら、交通安全の大切さ、交通事故の予防、安全な行動の必要性を説明しました。

通行車両を見ながら「朝の通勤は時間に余裕を持って出発し、安全運転に取り組んでいただきたい」と榮警備主任は呼びかけていました。



大雑報

身の回りで起きた、さまざまなお話を楽しく報告するコーナーです。職場の話でも、家庭の話でも、休日の話でも、ご報告ください。

来年もその先も
花火大会が続きますように

8月25日、毎年楽しみにしている湘南ひらつか花火大会に行ってきました。

毎年約3000発の花火が打ち上げられる本大会は、今年で71回目。当院は今回企業向け協賛に初参加しました。特典の一つにスポンサー特別招待席があり、当院内での30倍以

上の高倍率抽選に幸運にも私が当選！ 毎年会場から離れた浜辺で見ている花火を、間近に見ることができました。スターマインや音楽とシンクロする花火など、どれも工夫が凝らされ、あちこちから歓声や拍手が起きていました。



もたち、職場で集まるグループ等、コロナ禍では見られなかった光景も目にし、うれしく感じました。

(神奈川・湘南平塚病院)

総務課 岩本優美子

★感動も興奮も30倍以上!? 特等席からの花火、きつとこれまでの岩本さんの頑張りへのご褒美ですね。

(メディカル・リーフ 坂本陽子)

100歳おめでとうの会

9月19日、特養入居者さんの100歳のお祝いを開催しました。

当日は、柳田清二佐久市長や関係者が来所。市長からのお祝いのメッセージや祝い状・お祝いの品々の贈呈がありました。入居者さんは少し緊張した面持ちで壇上に上がりましたが、ご家族や職員からの祝福を受けると徐々に緊張も解け、とてもうれしそうな表情に。これからも元



に施設での生活を過ごしてもらいたいと思います。

(長野・佐久市特養シルバークラウド)

みつい 清生記者 大森 智

★今度から100歳は1世紀歳と呼ぶことになりました(?!)。ということとは、まだ一つ。先は長いですよ。

(本部広報室 山内 敦)

趣味を楽しむ入所生活

当施設に入所しているご夫婦。ご主人の趣味は写真です。構図や被写体への光の当たり方を計算して撮影



し、パソコンで編集。さらにその写真をスケッチします。

奥様に会いに行った時には、そのスケッチした絵をプレゼント。会話を楽しんだり、とても幸せそうな2人の時間を過ごしています。

思い出の北里柴三郎記念館へ

阿蘇郡小国町で開催されたシネマバードへ参加した際(本誌「トピックス」P.69・熊本病院)、北里柴三郎記念館を訪ねました。リニューアルされたばかりで、タブレットを使って学ぶことのできる現代的な素晴らしい施設になっていました。

私が小学生の頃に訪問したとき



は、貴賓館の2階で「俳句コンテスト」が開催されており、家族全員で応募しましたが、結果を確認することなく今に至っています。今でも小国町の話になると、必ずこの話題になるという思い出の場所です。

(熊本・みすみ病院)

清生記者 船橋麻紀

★北里柴三郎が千円札になるのは、いよいよ来年度から。その図柄がこんな写真だったら、使うたびに笑えたのね。(本部広報室 山内 敦)

他の入所者さんにおいても、考えや思いを聞き、趣味を楽しみながらその人らしく過ごせるよう個別の支援を行なっていきたいと思えます。

(愛媛・松山特養 清生記者)

畑中利恵

★理想の夫婦です。憧れます……。それにしてもご主人の腕前すごい! 清生記者研修会で講義してくれませんか? (本部広報室 河内淳史)

夫婦で子育てしやすい環境を

臨床検査科の足立玲さんと看護師の足立有華さんは、夫婦で当院に勤務しています。

今年2月に2人目のお子さんが誕生し、玲さんは3〜7月の5カ月間、育児休業を取得。有華さんが出勤の際に上のお子さんを院内託児所に送り、玲さんは日中、自宅で赤ちゃん2人と二人で過ごしました。また、家族の夕食の準備など家事も担当しました。

8月からは有華さんが育児休業を取得。今度は玲さんがお子さんを院内託児所に送り、出勤しています。「大変だなと思うことは多々ありましたが、じっくり子どもの成長を見ることができました。有華さんの大変さも共有でき、育児休業を取得しやすかったです」と玲さん。今後も、当院は男性も育児休業を

美術館で初の作品展

10月4〜9日の6日間、福岡県嘉麻市にある織田廣喜美術館で「花のクレイクラフト展」が開催されました。その展示会で、私が参加する稲築アートサークルも作品の展示をさせてもらいました。

B2サイズの額に入る大きさであれば小さな作品をいくつも並べてもよし、大きな作品1点でもよしというところで、チャレンジ精神旺盛? 私は、大きな作品1点を製作することに。苦手な水彩画に挑戦してみましたが、先生に指導してもらいながら何とか完成。私の下手な絵でも、美術館に飾ればそれなりに見栄えがよくなった気がします。

今回は自分の作品が飾られるという事で美術館に足を運んだのですが、一番印象に残ったのは粘土で作られたクレイクラフト作品。花など



も本物そっくりですごく興味をそえられるました。いつかクレイクラフト作品にも挑戦してみたいと思います。

(福岡・飯塚嘉穂病院)

清生記者 春口勇介

★まっすぐ伸びた道の先に何があるのか、わくわくする作品ですね。モデルは息子さんでしょうか?

(大空出版 後藤藍子)

「緑のカーテン」できました!

昨年、SDGsの取り組みとして緑のカーテンづくりに挑戦し、その結果報告を宣言していたのですが(2022年8月号参照)、残念ながら惨敗に終わりました(涙)。今年はリベンジを果たすべく、早めに準備に取りかかり、5月末にゴーヤ3本、フウセンカズラ3本、6月には2鉢の朝顔も植え、それぞれが順調に成長。9月上旬には事務所の窓を覆いつくすほどに伸び、色鮮やかな緑のカーテンが完成しました!

また、今年初挑戦のフウセンカズラの実から大量の種が採れ、それを女性職員が20粒ずつ丁寧に包装。会計窓口で患者さんに自由にお持ち帰りいただくことにしました。

ハート形の種がかわいいと評判で、来年はフウセンカズラをメインにカーテンの規模をさらに拡大しよ



取得しやすい職場環境づくりに努めます。

(鳥取・境港総合病院)

清生記者 亀尾美子

★お互い交互に役割分担をして、すてきな夫婦ですね! それができる職員皆さんの環境もすてきです。

(本部広報室 杉山菜央)

あつぱれ100歳!

10月10日、当荘で二人目の満100歳の入居者さんを祝う会を行ないました。写真撮影の時はマスクを外せるくらいにコロナも落ち着き、たくさん入居者さんと一緒に祝うことができました。

今回100歳を迎えた原田立恵さんはピンクの大きなコサージュがとても誇らしげ。表彰状授与の際もすくっと立ち上がっていました。ご

うか検討中です。

(愛媛・小田診療所)

診療放射線技師 福岡博実

★緑豊かな立派なカーテンですね。



夏の暑さを除けてくれて、遠くから見れば疲労回復も。一石二鳥です。

(本部広報室 杉山菜央)

伝説のスーパースターとツーショット!

サッカーファンなら誰もがこの写真を見てびっくりするのではないのでしょうか? そうです、あの元イタリア代表アレックスサンドロ・デルピエロとのツーショット写真です!

9月16日、北海道コンサドーレ札幌のホームゲームにデルピエロ氏がゲストとして来場。記念撮影・パス交換ができるというファンにはたまらない豪華イベントに20年来のファンティーンである私は、遠路はるばる横浜から参加してきました。

たった20秒間のパス交換でしたが、ユニホームに直筆



(本部総合戦略課 旗手厚太郎)

のサインもしてもらって大満足。21年前の日韓W杯、札幌ドームでアツブリーの試合を観たときのあの興奮が蘇りました。

は、ぜひ行ってみてください!

(本部広報室 杉山菜央)



表わらの一味巡り、コンプリート!

熊本病院では、来年1月28日開催の第76回済生会学会・令和5年度済生会総会に向けて着々と準備を進めています。

私も、担当するおもてなし部門のリサーチのために休日はお土産売り場、物産展、観光地を回り「あれでもな



い、これでもない」と考え中(どうぞお楽しみに)。

そんな中、熊本地震の復興プロジェクトとして県内各所に設置された10体の「ワンピース」キャラクター像巡りをコンプリート! それぞれの場所にはキャラクターが設置された意味があり、例えば考古学者ニコ・ロビンの像がある「旧東海大学阿蘇キャンパス」には熊本地震震災ミュージアムKIOKUが併設。当時のままの地表地震断層が保存されています。

学会で来られた際は、熊本城や震災ミュージアムなど復興の様子をぜひ見届けてください。

私は表わらの一味巡りコンプリートを機に、ワンピースを読み始めよ

★アレックス! 羨ましいです。夢のような20秒間は旗手さんの一生の宝物になったかと思います。

(済生 印刷 榎白橋 茂野洋一)

私の「推し」シューズ

私が数年前からはまっている趣味の一つがスニーカーです。

NIKEのエアジョーダンなど「スニーカーヘッズ」(スニーカー愛好家)たちに好まれるシリーズはたくさんありますが、私が特にハマっているのがニューバランスの「99Xシリーズ」。「10000点満点で、990点」という強烈な調い文句で、初代モデル発売時は大変な話題に。990から999までモデルがあり、992はステイプ・ジョブスが愛用していたことでも有名です。

私の一番の「推し」は993。どんなに長時間履いても疲れない最高の履き心地、合わせる服を選ばないデザイン性の高さ...一度履いたらやみつきになります。993は現在廃盤となっていて入手困難ですが、入手できるモデルもたくさんあります。ぜひみなさんも10000点中990点以上の履き心地を試してみてください。

(本部共同治験推進室 矢野裕子) ★993、どうりでプレミアアがつ



くわけですね...結局買わずじまいだったので後悔しています...。

(メディアカル・リーフ 富谷咲希)

本部出前サークル再び

みなさん、2022年12月号の大雑報で掲載した本部出前サークルの記事を覚えていますか? 以前寄稿したときは「新福菜館麻布十番店」のヤキメシでしたが、今回は「マンチズバーガーショップ芝公園本店」のハンバーガー。今年度入職した矢野裕子さんと名取知晃さんも参加し、有志でデリバリーを頼みました。2017年にアメリカ・トランプ大統領来日した際、昼食にこちらのハンバーガーが提供されたことがあり、今でもイトインだと行列ができる人気店。赤身肉が中心のパティは肉汁たっぷり、食べ応え抜群のハンバーガーです。本部に来たときに

次号予告

済生 No.1134 [令和5年12月号]

済生会の不易流行論 (183) 炭谷 茂

NEWSな済生人

済生会交差点

この人 西尾まり

口福にっぽん (75)

錦玉菓子 ゆうたま (徳島市)

てづくりおもちゃ いまいみさ

うと思います。

(熊本病院 済生会学会準備室 木村智子)

★なんともユニークな復興支援!「ピノ国」での学会開催に向けて、参加者は「ワンピース」必読ですね。(メディアカル・リーフ 富谷咲希)

歴史を刻んだ「済生会手帳」

9月末、退職のため身の回りの整理をしていた井上緑事務次長のデスクからたくさんの済生会手帳が出てきました。次長が入職した1991年から全て保管されていたようです。皆でびっくり!

さらに驚いたのがとてもきれいな状態だったこと。劣化は感じられず1991年版と今年の手帳を比べても遜色ありません。きつと上質の素材で作られているんだろうなあと済生会手帳を改めてありがたく感じま



した。

1991年は唐津で済生会学会・総会が開催された思い出に残る年。入職したばかりで学会の準備に奔走したこと、先代の川崎勝也院長と園田孝志院長の二代にわたり病院長会の事務局を担ったことなど「この年はこうだったな」と楽しそうに話

あなたも知ったか？

あなたの生活は、 会の理念を いままでか

済生会広報実務研究会 × 済生会本部広報室
SAISEIKAI PUBLIC RELATIONS SOCIETY

済生会理念の実現に向けた 済生会職員意識調査研究

済生会に対する**職員の意識**を明らかにし、済生会の**理念実現**のためには
なにが必要なのか、その答えを探求するための調査です。そして、済生会
のあらたな10年に向けて済生会組織の**現在地を知る**ための調査です。

対象 **64000人の済生会職員** (委託・派遣を除く)

調査期間 **2023年11月1日から30日**

されていきました。

井上次長、33年間当院を支えて下さってありがとうございます！

(佐賀・唐津病院 済生記者 相島蘭香)

★長年の思い出を語るツールとして使ってもらえてうれしく思います。印刷屋さんをやつてよかった。

(済生) 印刷 (榎白橋 茂野洋一)

新入職員、頑張ります！

私は今年の4月に介護職員の新人社員として当施設に入職しました。大学時代はコロナ禍で介護現場に出て実習を行なうことができず、しっかりと業務ができるのか、入居者さんとコミュニケーションをとることができるのか、不安と焦りでいっぱいでした。

しかし、ユニットの先輩方から業務のことや介助のコツなどをわかりやすく教えていただき、仕事に対する焦りを軽減することができました。不安に感じていた入居者のみなさんとのコミュニケーションも、入職当初は緊張で顔がこわばり、それが伝わってしまった会話が続かないことが多かったのですが、笑顔を意識してお話することで自然に会話を楽しくするようになりました。

入職初年度で大変なこともありましたが、入居者のみなさんが毎日笑顔



で過ごせるように精いっぱい努めていきたいと思えます。

(山形・特養愛日荘 介護職員 松浦 渚)

★客観的に自己分析する。なかなかできませんよ。松浦さんがいて入居者さんも毎日楽しいと思えます。

(本部広報室 河内淳史)

お詫び 10月号「大雑報」の「目指せ、山の王者!」の参加者は1203人の誤りでした。お詫びし訂正します。



済生会

明治44年2月11日、明治天皇は、時の総理大臣桂太郎を召されて「恵まれない人々のために施療による済生の道を広めるように」との済生勅語に添えてお手元金150万円を下賜された。桂総理はこの御下賜金を基金として全国の官民から寄付金を募って同年5月30日財団法人済生会を創立した。

以来今日まで112年、社会経済情勢の変化に伴い、存続の窮地を乗り越えるなど幾多の変遷を経ながらも、本会は「施療救療」という創立の精神を引き継いで保健・医療・福祉の充実・発展に必要な諸事業に取り組んできた。

戦後、昭和26年に公的医療機関の指定、同27年に社会福祉法人の認可を受け、現在、社会福祉法人財団法人済生会となっている。

済生 [令和5年11月号]

THE NEWSLETTER of Social Welfare Organization Saiseikai Imperial Gift Foundation, Inc.

令和5年11月10日発行

通巻第1133号 (第99巻第11号)

編集兼 炭谷 茂
発行人

発行所 社会福祉法人財団法人済生会

〒108-0073
東京都港区三田1-4-28
三田国際ビルディング21階
TEL: 03-3454-3311 (代)
FAX: 03-3454-5576

印刷所 株式会社白橋
東京都中央区八丁堀4-4-1

© 社会福祉法人財団法人済生会

総裁 秋篠宮皇嗣殿下
会長 潮谷義子
理事長 炭谷 茂
本部Ⅱ東京 支部Ⅱ40都道府県
病院 81
診療所 20
介護医療院 2
介護老人保健施設 28
救護施設 1
児童福祉施設 25
老人福祉施設 120
障害者福祉施設 9
看護師養成施設 7
訪問看護ステーション 64
地域包括支援センター 31
地域生活定着支援センター 5
その他 10
合計 403 (数字は令和4年度)
さらに巡回診療船「済生丸」が瀬戸内海の60島の診療活動に携わっている。
職員数は全国で約6万4000人。

調査にご協力をお願いします

1 2次元バーコード もしくはURLから アクセス

(調査期間前にアクセスしてもアンケートは表示されません)



<https://qrtn.jp/4h9fe>



2 WEB フォームから回答 全 25 問

2023年11月1日から30日の間に回答してください

お一人につき回答は1回です

個人が特定されることはありません

(アンケート調査委託会社：データセレクト)

倫理的配慮

1. 回答は任意であり調査に応じないことであなたに不利益が生じることはありません。
2. 無記名の調査であり、回答内容があなたの不利益になることはありません。
3. 済生会の各施設名を明示して分析するものではありません。
4. データは研究以外の目的では使用いたしません。

問い合わせ

- ・ 済生会広報実務研究会 (会長)：京都済生会病院 企画広報室長 松岡志穂
TEL 075-955-0111 Email s.matsuoka@kyoto.saiseikai.or.jp
- ・ 本部広報室：室長心得 河内淳史
TEL 03-3454-3087 Email a.kawauchi@saiseikai.or.jp

詳しい内容は別添の研究計画をご確認ください